

手で考え、
心でつくる。

Kanazawa College of Art

KANAWA B1 2026

令和8年度 一学 校内

2026

金沢美術工芸大学

公立大学法人 金沢美術工芸大学

〒920-8656 石川県金沢市小立野2丁目40番1号
TEL 076-262-3531 FAX 076-262-6594

2-40-1 Kodatsuno Kanazawa Ishikawa 920-8656 Japan
TEL +81-76-262-3531 FAX +81-76-262-6594
<https://www.kanazawa-bidai.ac.jp>



2025年(令和7年)4月発行 本書に掲載されている情報は2025年3月時点のものです。



金沢美術工芸大学
KANAZAWA COLLEGE OF ART

大学憲章

金沢美術工芸大学は、1946年、戦後の混乱と虚脱のなか、学問を好み、伝統を愛し、美の創造を通じて人類の平和に貢献することを希求する金沢市民の熱意により、工芸美術の継承発展と、地域の文化と産業の振興を目指して創立された。

以来、本学は豊かな自然環境と歴史的遺産のなかで、美術・工芸・デザインの分野における個性豊かな教育と学術研究に取り組み、文化都市金沢の発展の一翼を担ってきた。

素材を知り、技を磨き、現代に生きる表現に高めるべく「ものづくりの精神」を尊び、幅広い人間性に裏付けられた理論と技術の彫琢をとおして、芸術が社会に果たす役割を自ら探し行動する人材を育成し、世界における創造の機会の拡大と多様化に資するために、本学は知と創造の拠点となることを目指す。

沿革

- | | |
|--|--|
| 1946 下本多町三番丁（現出羽町）に金澤美術工芸専門学校（本科3年、予科1年制、美術科45人、陶磁科30人、漆工科30人、金工科15人、計120人）を設立 | 1997 大学院博士後期課程を設置 |
| 1950 金澤美術工芸短期大学（3年制、美術科45人、工芸科75人、計120人）を設立 | 1998 国際的芸術家滞在制度を発足（～2006）
芸術学専攻、デザイン科3専攻が推薦入学を実施 |
| 1954 産業美術相談所を設置 | 2000 大学院修士課程再編により絵画・彫刻・芸術学・工芸・デザイン専攻の5専攻が発足
図書館棟増改築工事が完成 |
| 1955 金沢美術工芸大学（4年制、美術学科〔絵画専攻・彫刻専攻〕40人、産業美術学科〔商業美術・工業意匠〕60人、計100人）を設立 | 2001 運営諮問会議を設置（～2010） |
| 1965 美術学科定員を1学年40人から55人に増員、商業美術、工業意匠を商業デザイン専攻、工業デザイン専攻に変更
産業美術学科に工芸・繊維デザイン専攻（15人）を設置 | 2005 大学院修士課程（デザイン専攻）にファッションデザインコースを設置（～2020）
美術工芸研究所に産学連携センターを設置 |
| 1966 教職課程（正規・聴講）を設置
図書館及び実験研究棟が完成 | 2006 美術工芸研究所を再編し、教育研究センター、地域連携センター、産学連携センター、国際交流センターの4センターが発足 |
| 1970 伝統工芸聴講生制度を設置（～2011） | 2007 美術工芸研究所を造形芸術総合研究所に改称
芸術学専攻定員を1学年10人から15人に増員 |
| 1971 博物館学課程を設置 | 2008 財団法人大学基準協会の大学基準適合認定 |
| 1972 美術工芸研究所を設置
小立野5丁目11番1号に新校舎が完成、移転 | 2010 アートギャラリー開設（～2014）
公立大学法人金沢美術工芸大学に移行
造形芸術総合研究所を美術工芸研究所に改称 |
| 1973 研究生制度（学部）を設置（～2017）
市民講座を開設（～2006） | 2011 問屋まちスタジオを開設 アートベース石引を開設 |
| 1974 工芸・繊維デザインを工芸デザイン専攻に変更 | 2014 柳宗理記念デザイン研究所を開設 |
| 1977 市民工房を開設（～2004） | 2016 社会連携組織を再編し、社会連携センターに地域連携部門、産学連携部門、知財管理部門を設置
アジア美術戦略会議、キャリア支援室が発足 |
| 1979 大学院修士課程（絵画・彫刻専攻、産業デザイン専攻）を設置 | 2017 美術工芸研究所ギャラリーを開設 |
| 1980 大学院棟が完成
夜間教養講座を開設（～1991） | 2018 大学院美術工芸研究科に研究生制度を設置 |
| 1985 石彫棟を新築 | 2023 入学定員の一部変更とデザイン科の改編により、美術科（日本画専攻・油画専攻・彫刻専攻・芸術学専攻）65人、デザイン科（ホリスティックデザイン専攻・インダストリアルデザイン専攻）60人、工芸科30人の教育課程に移行 |
| 1986 美術学科に芸術学専攻（10人）を設置
美術工芸研究所棟、美大ホールが完成 | 大学院修士課程（絵画専攻）に映像コースを設置、絵画専攻定員を1学年10人から14人に増員、工芸専攻定員を1学年9人から13人に増員、デザイン専攻定員を1学年10人から6人に減員 |
| 1990 大学院修士課程（芸術学専攻）を設置 | 小立野2丁目40番1号に新校舎が完成、移転（敷地面積47,212.87㎡、建物面積37,357.65㎡） |
| 1991 大学院（修士課程）工芸デザイン専攻定員を1学年15人から20人に増員 | 共通工房を設置 |
| 1992 工芸実習棟が完成 | 2024 社会共創センターを設置
市民講座 KANABI OPEN STUDIO を開設 |
| 1993 共通造形センターが発足（～2010） | |
| 1996 学科再編により美術科（日本画専攻・油画専攻・彫刻専攻・芸術学専攻）65人、デザイン科（視覚デザイン専攻・製品デザイン専攻・環境デザイン専攻）60人、工芸科20人が発足 | |

活動指針

創作の意欲と能力を育てる教育の推進

Creative Potential

地域の文化資源を活用し、「手で考え、心でつくる」をモットーに創造力を高め、人間味あふれる個性と倫理を涵養し、未来社会を拓くクリエイターの育成を目指す。

質の高い研究とオリジナリティの追求

Professional Individuality

深く芸術の神髄を探究し、諸分野における卓越した知識と技術の継承によって、固有の芸術領域を開拓し、創造的かつ先端的な文化の発信母体となる。

地域と世界に貢献する芸術活動の展開

Public Contribution

市民から愛され、尊敬される芸術文化教育の中核を担い、地域社会の活性化と人々の幸福を願い、地球社会の平和と共存に貢献する。

自立した大学の運営と公共性を重んじる組織の発展

Institution Independence

社会の変化に迅速かつ的確に対応できる教育体制と事務組織を構築し、自己決定、自己責任に基づく自主自立の大学運営を目指す。



金沢美術工芸大学
KANAZAWA COLLEGE OF ART

手で考え、 心でつくる。

学問を好み、伝統を愛してその歴史を紡いできたまち、金沢。
工芸が今も生活のなかに息づくこの地は、ものづくりのまちでもあります。

金沢美術工芸大学は、戦後の困難な時代のなか、
人のつくる力を信じる金沢の市民が、その心でつくった大学です。
この大学には、「手で考え、心でつくる。」ということばがあります。
ここで教鞭をとったある教員が残したこのことばは、
ものをつくることが
「つくりながら、試み、考える」ことであること、
「心をこめて」行うことであることを教えてください。
この大学で、たくさんの先輩たちが
「つくりながら、試み、考える」ことを繰り返し、
「心をこめて」作品をつくりあげ、世界へ飛び立っていきました。

「手で考え、心でつくる。」
今日も金沢美術工芸大学では、このことばのもとで、
学生たちが学び、鍛錬を重ねています。
ものをつくること、そして
ものをつくることについて真剣に考えること。
それを志すあなたの豊かな力になる時間が、ここにある。
私たちは、そう信じています。

ご挨拶



金沢美術工芸大学 学長 山村 慎哉
President YAMAMURA Shinya

芸術は、日常の中に静かに、しかし力強く息づく情熱であり、同時に未来を切り拓く原動力でもあります。現代はインターネットやバーチャル空間の普及により、誰もが手軽に知識へアクセスできる時代です。しかし、便利さが広がる一方で、大学でしか体験できない深い学びや、人と人との対話、そして実践を通じた自己発見の価値を、今こそ改めて見直す必要があります。

金沢美術工芸大学は、単なる専門知識の習得の場ではなく、自己と向き合いながら仲間や指導者との対話を重ね、実際に手を動かして未知の可能性を追求する“実践のステージ”です。近年の生成 AI やバーチャリアリティといった先端技術の登場は、私たちが感じ考える枠組みを根底から変えつつあります。だからこそ、芸術が担う役割はより一層重要になっています。芸術は単に美しいものを創り出すだけでなく、社会とテクノロジーを批評的かつ建設的に問い直し、新たな未来を示唆する原動力にもなり得るのです。

また、現代アートは多様性やサステナビリティ、国際性といった社会的価値を映し出し、人々の心に新たな気づきをもたらします。美しい作品を生み出すだけでなく、芸術は時に社会の構造そのものに問いを投げかけ、変革を促す力を秘めています。だからこそ、私たちは快適な環境から一歩踏み出し、失敗を恐れずに試行錯誤する勇気が必要だと考えます。その挑戦の積み重ねが、真の創造力を呼び覚まし、未来へと続く大切な一歩となるのです。さらに、本学が位置する金沢の地は、歴史と伝統が息づきながらも現代の革新が融合する特別な環境です。地域の人々との交流や、豊かな自然・文化を体感する機会は、オンラインだけでは得られない貴重な学びをもたらします。新たに整備されたキャンパスは、こうした体験を最大限に活かせるよう設計されており、五感を刺激し、自由な発想を育む場として機能しています。

大学時代という限られた時間は、振り返ると驚くほど短いものです。しかし、だからこそ今、この瞬間から挑戦を続け、行動し続けることが重要です。ここで培った知識と経験は、皆さんの未来だけでなく、社会全体にとっても新たな光をもたらすでしょう。どうか、自分の可能性を信じ、情熱と自由な発想をもって未知の領域へ飛び込んでください。

金沢美術工芸大学は、伝統と革新が響き合うこの地で、皆さんと共に新しい価値を生み出し、未来へつなげていきたいと願っています。未知の世界で生まれる数々の発見や感動を糧に、共に歩み、共に創り出す旅を始めましょう。皆さんが踏み出す大いなる一歩を、私たちは心から応援しています。

目次

大学憲章・沿革	002
活動指針	003
学長挨拶	006
キャンパス紹介	008
活躍する卒業生	012
日本画	018
油画	022
彫刻	026
芸術学	030
ホリスティックデザイン	034
インダストリアルデザイン	038
工芸	042
一般教育等／基礎科目	046
修士課程	050
博士後期課程	054
美術工芸研究所	058
教育研究センター・柳宗理記念デザイン研究所	060
社会共創センター	061
国際交流センター	062
附属図書館	063
学生生活	064
大学の組織・学生数等	065
入学試験結果・学費	066
教員一覧	068
アクセス	070

KANABI Campus

Introduction

キャンパス紹介



開かれた美の探求と 創造のコミュニティ

すべての学生が専門分野を越えて創作する「共通工房」をリング状に配置するとともに、展示や合評を行うスペースである「アート commons」を随所に分散して配置することにより、様々な領域の垣根を越えて交流するキャンパスです。



アート commons

キャンパス内の随所に設けられている「アート commons」は、多様な作品の展示や合評が行われ、学生同士が刺激しあえる空間となっています。最も広い展示空間のアート commons A は、500㎡を超える広さがあり、大型の作品展示も可能です。



共通工房 KANABI Studio

学生が公平かつ自由に制作できる創作の場です。キャンパスの中庭に位置する創作の庭を取り囲むように設置され、専門性に応じて「絵画エリア」「彫刻・デザインエリア」「工芸エリア」「メディアエリア」の4つのエリアに67の工房があります。各工房には高度な専門知識を持った技術専門員が配置され、技術面と安全面のサポートを受けることができます。領域を横断する現代の表現に相応しい制作を支え、自由で主体的な学びのプラットフォームとして重要な役割を果たしています。

絵画エリア



彫刻・デザイン エリア



工芸エリア



メディアエリア



KANABI Campus Introduction



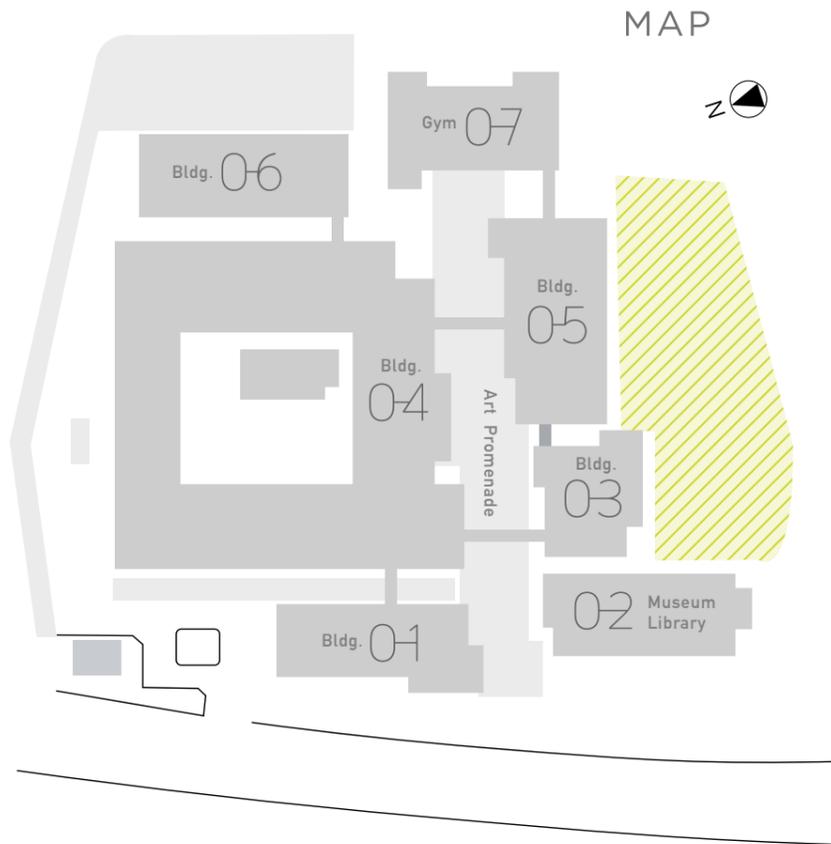
ビオトープ

代々の美大生に親しまれてきた亀や鯉を題材に制作活動も可能な憩いの場です。



遊歩道／屋外モニュメント

辰巳用水に沿って緑や水を感じながら気軽に散策できる歩行者空間です。遊歩道脇には卒業買上作品を屋外モニュメントとして配置しています。



01

1号館

- 学長室 アートcommons ラウンジ
- 事務局 会議室
- 保健室 一般教育等
- 講師控室 芸術学
- 守衛室 技術専門員室
- 美術工芸研究所



メインエントランス

おなじみの「ニケ像」が迎えるメインエントランスは明るく開放感にあふれた空間となっています。



02

美術館 図書館

- 図書館 レクチャーホール
- アートギャラリー アートcommons ホワイエ
- 平成の百工比照コレクション



美術館・図書館

美術工芸研究所が取り組む「平成の百工比照コレクション」を実際に手に取って見ることができるほか、約13万冊の美術関連書籍を収蔵し、学生や教職員の教育や研究、学習ニーズに応えます。



講義室

アートプロムナードに面した出入りしやすい場所にある講義室は、授業のほかに外部講師による講演会などにも利用されます。



学生ラウンジ

地元の食品会社が定食などを販売しており、一般の方でもご自由に利用いただけます。

3号館

03

- 学生ラウンジ 売店
- 講義室 アートcommons D



共通工房

創作の庭を中心に工芸、絵画、彫刻／デザインエリアの共通工房が配置されています。



アートcommons

キャンパス内の展示空間です。授業の展示や合評が行われ、一般市民の方もご入場いただけます。

4号館

04

- 共通工房 ホリスティックデザイン
- 日本画 インダストリアルデザイン
- 油画 工芸
- 彫刻 アートcommons A・B・C
- 芸術学



プレゼンルーム

授業での利用のほか、就職ガイダンスなどにも利用されます。



5号館

05

- ホリスティックデザイン
- インダストリアルデザイン
- アートcommons E



共通工房

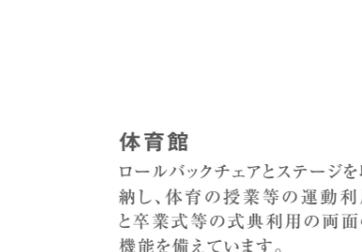
メディアエリアの共通工房が配置され、デジタルコンテンツ制作をはじめとする様々な特性に応じた作業を行うことができます。



6号館

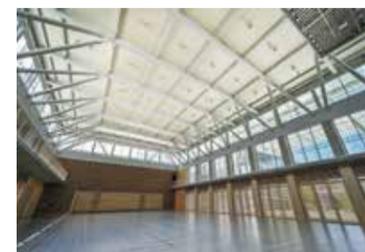
06

- 共通工房
- 油画
- アートcommons F



体育館

ロールバックチェアとステージを収納し、体育の授業等の運動利用と卒業式等の式典利用の両面の機能を備えています。



体育館

07

- アリーナ
- アートcommons ホールホワイエ

活躍する卒業生

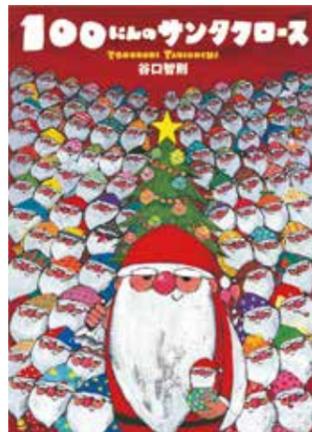


岩田 壮平 (大学院日本画 2002年修了)
「雪月花時最憶君-花泥棒」 第6回東山魁夷記念 日経日本画大賞展 大賞

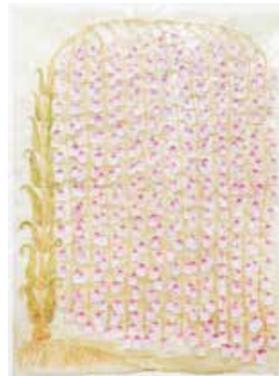
じっくり制作し、絵と向き合える環境で
卒業後も支えになっています。



中田 日菜子 (大学院日本画 2023年博士後期課程単位取得満期退学)
「蛇を踏む」2023年博士後期課程満期修了買上げ



谷口 智則 (日本画 2003年卒業)
「100にんのサンタクロース」文溪堂
2013年発売



今村 文 (大学院油画 2008年修了)
「花ひとつ(ピンクのすずらん)」



北川 由希恵 (大学院日本画 2014年修了)
「空にけむる」第79回石川現代美術展美術文化準大賞



沖田 愛有美 (大学院博士 油画 2024年修了)
「ほほえみのピオトープ」(2024年)
木板に寒冷紗、漆、金属粉、珪藻土



古市 牧子 (油画 2009年卒業)
「Hairy sky, warm rain」2023年
壁画(水彩)、水彩画、シャガールのリトグラフ「Le Prophète Elie, 1970」を構成
Copyright : Massabo Patrick



高松 美咲 (油画 2014年卒業)
講談社「スキップとローファー(11) (アフタヌーンKC)」
(2024年)



野村 由香 (彫刻 2017年卒業)
「Repetitive Activity in Toyama City」(2023年)

人生は楽しんだもの勝ちだと思います。
毎日を笑って過ごすのも寂しく過ごすのも自分次第!



山崎 菜未 (芸術学 2009年卒業)
ポーラ美術館学芸員



婦木 加奈子 (彫刻 2019年卒業)
「洗濯物の彫刻」(2022年) 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
「第1回 MIMOCA EYE/ミモカアイ」展示写真 撮影:宮協慎太郎



多々見 草太 (大学院彫刻 2023年修了)
「puma punk」(2022年)



丹羽 啓 (大学院彫刻 2019年修了)
「生の発掘」(2022年)



立浪 佐和子 (大学院芸術学 2005年修了)
横須賀美術館学芸員



若山 満大 (芸術学 2013年卒業)
東京ステーションギャラリー学芸員

大きく未来に開かれた
素敵な時間をめいっぱい
楽しんでください!



尺戸 智佳子 (大学院芸術学 2005年修了)
黒部市美術館学芸員



西出 衣織 (大学院デザイン専攻 環境デザインコース 2012年修了)
TBS「ラヴィット!」セットデザイン



谷 清風 (環境デザイン 2017年卒業)
乃村工芸社 本社リニューアル クリエイティブ執務フロア



Hurray! (ほぶりか、おはじき、まごつき)
(視覚デザイン 2014、2016年卒業)
映画『数分間のエールを』2024年初夏全国公開



下浜 隆太郎 (視覚デザイン 2006年卒業)
INDUSTRIAL JP × 富士フィルム足柄工場 2019/10/29

作品をつくれば、
自分と社会がどんどん見えてくる。
楽しいよ!



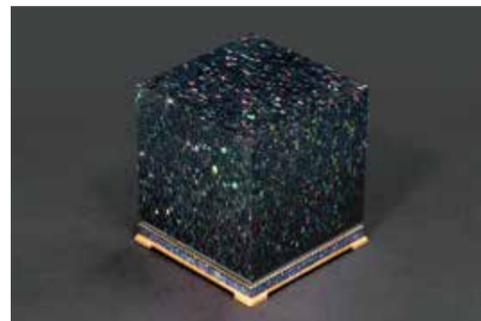
愛場 和樹 (インダストリアルデザイン 1994年卒業)
SUBARU BRZ エクステリアデザイン (株)SUBARU



別所 潮 (インダストリアルデザイン 2015年卒業)
LAMDASH PALM IN ES-PV series パナソニック(株)
GOOD DESIGN AWARD 2023 金賞受賞



鈴木 僚 (インダストリアルデザイン 2016年卒業)
SORI/MUKURI(TATAMI ReFAB PROJECT)
HONOKA / ヤマハ(株)



池田 晃将 (大学院工芸 2016年修了)
「電光十進玉箱」電光装飾-Cyber Effect-池田晃将 漆芸展(日本橋高島屋)



岩村 達 (大学院工芸 2013年修了)
[Neo Jomon_ Still Dreaming Girl]
2022 個展 [Always Lonely] New York City、ニューヨーク州、アメリカ

ここまで工芸が充実した大学はおそらくどこにもないです。
自分の手で創りデザインを学んだ経験は社会人になっても生き続けています。



石津 雄登 (インダストリアルデザイン 2013年卒業)
AI_DRONE ソニー(株)

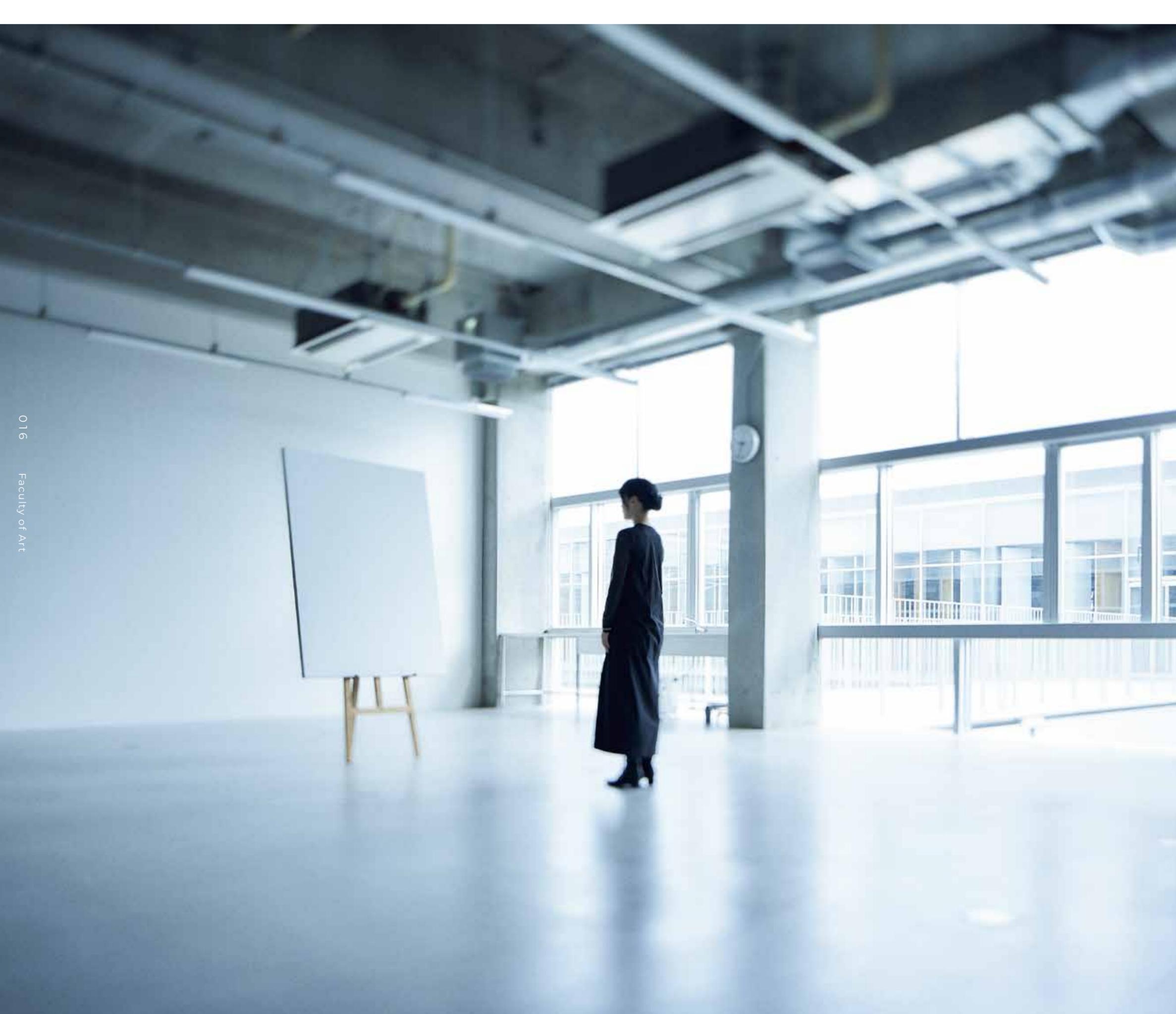


織田 隼生 (大学院工芸2017年修了)
「Hybrid "Dodecahedron×Spiral"」
2022 Solo Exhibition Goldwin Beijing、中国

やりたいことを、自由に目一杯、
させていただいた学生生活でした。



家長 百加 (大学院工芸2024年修了)
「Transform series光を扇ぐ」
2022年「工芸2022」オーディエンス賞
2023年「2023年伊丹国際クラフト展 ジュエリー」入選
2024年「Forbes JAPAN 30 UNDER 30 2024」MUFG特別賞



美術工芸学部

美術科

日本画専攻
油画専攻
彫刻専攻
芸術学専攻

デザイン科

ホリスティックデザイン専攻
インダストリアルデザイン専攻

工芸科



100年後に残る絵画を目指して。

美しい岩絵の具、本質をとらえた表現…この国に伝わる日本画と呼ばれる独自の絵画表現は時代とともに幅を広げつつ進化を遂げてきました。しかしこの表現方法の習得には古来より様々な「画派」の存在が示すように、やる気や根気とともに段階を踏まえた教育が必要でした。本学の日本画では緻密に計算されたカリキュラムで日本画技術の基礎から伝統的表現を経て未来に羽ばたく日本画表現を目指す人材をアシストします。

1年次

日本画で使う岩絵の具や膠など独特な画材は扱いに高度な技術を必要とします。1年次は基礎描写や鳥獣戯画の模写を通して日本画のものの捉え方や見方を学び、日本画の伝統的な画材を体得していきます。

- 基礎描写
- 古典絵画模写
- 精密描写
- その他実習



1年次 講評会風景



基礎描写 スルメとネギ



鯉基礎描写の風景



基礎描写 鯉

2年次

2年次は写生、下図、大下図、本紙制作という日本画の基本的な制作プロセスを学んでいきます。その過程で和紙の裏打ちや水張りなどの基本的な技術を修得します。また、伴大納言絵巻の模写を通して、古典のものの見方から日本画独特の造形や色彩を学びます。

- 基礎表現技術
- 課題制作
- 古典基礎技術
- その他実習
- 伝統的基礎技術



写生指導風景



2年次 課題講評会風景



絹本課題 花卉



箔彩模写 伴大納言絵巻

3年次・4年次

3年次からは150号という大きな作品に取り組みます。自分の身体より大きな作品制作に懸命に取り組むことで、より深く表現と向き合っていきます。3年後期～4年前期は自身の制作を独自に研究する期間とし、伝統に基づいたもののみならず、現代に生きる等身大の感覚によって対象を捉えていきます。4年後期には卒業制作に取り組み、学生ごとのものの見方と技術が身につく、各々の日本画が生み出されます。

- 自由課題制作
- 学内展示発表
- その他実習
- 卒業制作



和紙を染めるガイダンスの様子



3年次 150号制作の様子



学内展示風景



3年次 講評会風景



4年次 巡回指導の様子



4年次 卒業制作プレゼンの様子



卒業制作制作風景



4年次 卒業制作最終講評会風景

少人数制による細かな指導

1学年15人に対して5人の専任教員が1年次から指導を行います。3年次からは10名以上の非常勤講師も加わり、学生それぞれの独自の表現を追求していきます。また、毎年5月には全学年で信州に郊外写生研修に行きます。講評会では先輩方の写生を見ながら表現について深く学び、学年を超えて交流していきます。



郊外写生研修 写生の様子



講評会の様子

卒業後の進路・活躍

【就職】日本画家(日展・院展・創画会等各公募系列他)／大学教員(京都市立芸術大学、佐賀大学、名古屋芸術大学、東北芸術工科大学、京都精華大学、宝塚大学、大阪成蹊大学、崇城大学、秋田大学、金沢学院大学、金城大学短期大学部他)／全国中小高教員／学芸員(石川県立美術館、福井県立美術館、名古屋美術館、MOA美術館、石川県立歴史博物館)／文化財保護修復関係機関各種／公立工芸研究機関(九谷焼技術、輪島漆芸他)／造形作家／工芸作家(陶芸、染色、漆芸)／漫画家／イラストレーター／各種デザイナー／映像関係／繊維関係／印刷関係／報道関係／会社経営／流通、販売系

【受賞・発表】日展(大臣賞、会員賞、特選)／日春展(外務大臣賞、山口蓬春記念賞、日春賞他)／全関西美術展(全関西賞他)／臥龍桜日本画大賞展(大賞他)／青垣日本画大賞展(大賞他)／現代美術展(美術文化大賞他)／文化庁在外派遣研修員／新風舎えほんコンテスト(優秀賞)／Seed山種美術館日本画アワード特別賞／院展(奨励賞)／春の院展(奨励賞)／東山魁夷記念日経日本画大賞展(大賞他)／上野の森美術館大賞展(特別優秀賞)／三溪展(優秀賞)／京展(京都市長賞他)／菅橋彦大賞展(大賞、準大賞)／郷さくら大賞展(大賞、準大賞)



高橋紀子 「いつか閉じた家」
土佐麻紙、墨、胡粉、水干絵具、岩絵具、工業顔料 H 130.3×W 194×D 3 cm



俣田千尋 「賑々しい木陰」
土佐麻紙、盛上げ、方解末、盛胡粉、雲母、水干絵具、岩絵具 H 130.3×W 194×D 3 cm



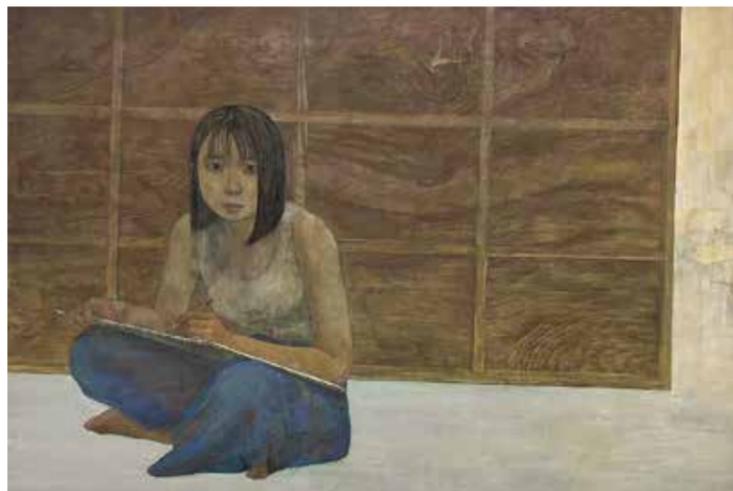
坂井亜也子 「余香」
雲肌麻紙、染料、顔料、墨、天然岩絵具、金属泥、金箔 H 190×W 180 cm



川崎千尋 「露ながら折りてかざさむ菊の花」
白麻紙、岩絵具、銀箔、アルミ箔、墨、水干絵具 H 281.8×W 227.3cm



佐伯龍進 「光に包まれて」
高知麻紙、水干絵具、岩絵具、墨、胡粉、盛上胡粉、銀箔 H 130.3×W 194×D 3 cm



田原有可里 「みつめる」
土佐麻紙、水干絵具、岩絵具、土絵具 H130.3×W194cm



矢野宏実 「心地よいせせらぎ」
麻布、銀箔、銅箔、水干絵具、岩絵具、雲母 H 162×W 227.3 cm



油画 Oil Painting

基礎力を備えた新時代の 芸術活動を担う人材の育成。

造形美術における基本的理念を理解させるとともに、高度な油彩画技法を指導し、各自の個性と感性を伸展させます。新時代の芸術分野での活動を可能にする美術教育をととして、将来を担う作家として相応しい人材の育成に努めます。

1年次

1年次はデッサン力を養い、油彩画の基本技術を習得するとともに、他分野の実習を通じて広く美術を学びます。

- 石膏デッサン
- 静物油彩
- パネル地塗り・テンペラ画
- グリザイユ
- アクリル画
- 人物着衣油彩



石膏デッサン



静物油彩



人物着衣油彩



グリザイユ

2年次

2年次は前学期では西洋絵画の知識・技術についての理解を進展させ、後学期では授業単元のテーマに沿った課題制作を通して表現の可能性を探ります。

- フレスコ画
- キャンバス制作
- カマイユ
- インスタレーション
- アニメーション
- 版画



フレスコ画



カマイユ



インスタレーション



アニメーション

3年次・4年次

3年次は制作のテーマや技術的な課題を明らかにするための表現技法研究と進級制作課題によって、表現の具体化について学びます。

表現技法研究 絵画、映像、立体・インスタレーション等の幅広い手段による表現を試行し、作品制作に繋げます。
進級制作・展示 進級制作では、個々の表現を具体化させ、作品を完成させます。4年次の卒業制作を視野におき学内ギャラリーにて展示を行います。



表現技法研究

4年次は学内外の専門的な視点による技術指導や作品講評を得ながら、卒業制作の完成に向けて高い表現力を身につけます。

前期制作・展示 前期は、卒業制作につながる実質的な制作に移る中で、制作上の技術的な課題を解決し、学内展示をとおして個々の制作に最適な作品サイズや制作期間、展示環境等について検討します。
卒業制作 後期は、集大成として卒業制作を行い金沢21世紀美術館に展示します。



前期制作・展示

絵画表現コース (油彩、アクリル)

写実的な描写から抽象的な表現の探求まで、制作のテーマは多岐に渡ります。

映像表現コース (アニメーション、ビデオ)

紙とペンで描いた動画や、人形、CG、実写等を駆使して制作に取り組みます。

ミクストメディア・空間表現コース

平面からインスタレーションを含む空間表現まで、様々な素材や技法を用いて取り組みます。



絵画表現コース



映像表現コース



ミクストメディア・空間表現コース

研修旅行

油画専攻では各年次に金沢近郊での一泊二日の校外写生授業、2年次の総まとめとしてパリ研修を行っています。普段とは異なる環境で自身が学んできたことを見つめ直す時間を過ごします。



パリ研修



校外写生授業

卒業後の進路・活躍

【就職】 画家、版画家、美術作家、絵本作家、漫画家、美術予備校講師、中学・高校教員、大学教員 (茨城大学、群馬大学、福井大学、宮崎大学、広島市立大学、金沢学院大学、金城大学短期大学部)、㈱アクアスター、㈱アークシステムワークス、㈱イマジカデジタルスケープ、㈱SNK、㈱エス・デー、㈱エポック、大阪印刷㈱、㈱カイキキキ、㈱カブコン、㈱京都アニメーション、弁護士法人クオリティワン、㈱グランゼーラ、㈱酒井化学工業、㈱Cygames、㈱佐藤塗装、㈱ジェーシースタッフ、㈱J-TECラボ、㈱四季 (劇団四季)、㈱スタジオコロロド、㈱スタジオポノック、㈱田井屋、㈱チップチェーン、㈱TBSアクト、㈱トーガン、㈱ニチイ学館、㈱俄、㈱任天堂、㈱ウハウス、㈱フェニックス、㈱フタバ、㈱モリスソフト、㈱ufotable、㈱コジ印刷 **【進学】** 金沢美術工芸大学大学院修士課程、博士後期課程、東京藝術大学大学院

【受賞・発表】 第97回国展 (新人賞受賞、入選)、第41回上野の森美術館大賞展 (大賞受賞)、第7回青木繁記念大賞ビエンナーレ (奨励賞受賞)、令和3年度みえ文化芸術祭第71回みえ県展 (最優秀賞)、第23回雪室舎フレンツェ賞展 (入選)、第56回関西国展 (新人賞・賞候補)、第32回美浜美術展 (入選)、ヤングアーティスト公募展「いい芽ふくら芽」 in Nagoya (優秀賞)、第38回FUKUIサムホール美術展 (入選)、2021年美の起原展 (準大賞)、シェル美術賞2021 (入選)、FACE展2022 (入選)、FACE展2025 (U30フロンティア賞)、第1回古川美術館Fアワード (スターキャットケーブルネットワーク賞)、第80回現代美術展 (次賞、北国賞、佳作賞、入選)、六花文庫企画公募展 (入選・入賞)



彫刻 Sculpture



「自然」を見つめ「素材」と語り
「私のかたち」を求めて。

現在、彫刻という表現の形態や解釈は多岐にわたり、限りなく可能性を広げています。彫刻専攻では、自然観察を通して形態の原理を学び追求することや、素材に触れその可能性を最大限に引き出すことを表現の原点として発展させていきます。自然を見つめ、素材と語り、時代を超えていく「私のかたち」を一緒に探しましょう。

1年次

1年次から2年次前期までは基本的な彫刻素材を通した
実習により、造形表現の基礎と各種の技法を体得します。

彫刻(一) I・II
自然観察 / 木彫実習 / 石彫実習 / 塑造実習

基礎科目
デザイン演習 / 映像メディア演習 / 絵画演習 / 美術解剖学・日本美術史I・II / 東洋美術史I・II / 西洋美術史I



自然観察



木彫実習



石彫実習



塑造実習

その他の活動



神村恵先生によるワークショップ



地域連携事業 触れてみる彫刻展
(石川県立盲学校)

2年次

2年次後期は、造形理論を深化させながら
自己表現の可能性を探ります。

彫刻(二) I・II
金属彫刻実習 / 複合メディア実習
選択課題: 塑造(人体) / 塑造(クレーワーク) / 木彫 / 石彫 / 金属彫刻 / 複合メディア

基礎科目
工芸演習 / 絵画演習 / 美学 / 西洋美術史II / 色彩論 / 近代美術史

彫刻論 I



金属彫刻実習



複合メディア実習



選択課題



選択課題

3年次・4年次

選択制による表現・素材別制作演習
3、4年次は素材や表現別に、またはそれらを横断しながら、個人のテーマ、内容を掘り下げ作品の完成を目指します。

彫刻(三) I・II **彫刻論 II** **彫刻史特講** **基礎科目**
コンピュータグラフィックス **彫刻(四) I・II**
卒業制作

塑造(人体・クレーワーク)



木彫



石彫



金属彫刻



複合メディア



卒業後の進路・活躍

【就職】彫刻家、造形作家、小学・中学・高校・大学教員、青山学院大学、金沢星稜大学、京都教育大学、東海大学、大阪成蹊短期大学、明星大学、愛知県立旭丘高校美術科、金沢市民芸術村、礪山美術館、金沢21世紀美術館、金沢森林組合、四季(株)、(株)共同通信社、(株)金沢舞台、劇団俳優座舞台美術、上越クリスタル硝子(株)、スズキ(株)、任天堂(株)、(株)本田技術研究所、井波彫刻・野村、(株)ウイン・ディー、(株)日産自動車(株)、(株)セガ、(株)東京スタデオ、コトキワークス(株)、(株)瑠璃光、(株)桑山、(株)北陸園芸、(株)道具、(株)イズム、(株)カブコン、(株)ピア21、(株)ダウリンチ、(株)杉田石材店、横浜美術大学、北海道教育大学、京都市立銅駝美術工芸高等学校、(株)シミズオクト、(株)壽屋、スタジオクロノス、エステティックTBC、(株)レベルファイブ、(株)コーエーテクモHD、(株)IMAGICA GEEQ、(株)名古屋モールド、松屋電工(株)、(株)リノベーションプランニング

【他大学等進学先】愛知県立芸術大学、沖縄県立芸術大学、京都市立芸術大学、多治見市陶磁器意匠研究所、多摩美術大学、筑波大学、東京藝術大学、富山ガラス造形研究所、広島市立大学

【受賞・発表】神戸六甲ミーツ・アート等コンペ、全国各地開催の芸術祭、アーティストインレジデンスに入選・参加出品、各団体展、コンクール等入選・受賞



金沢彫刻祭 2023 開会式



研修旅行(青森・北海道)



鈴木千尋 「refreeze my phone II - 旅 -」
 スタイロフォーム、アクリルガッシュ、紙、色鉛筆 サイズ可変



奥村花菜 「溶けゆくいのり」
 ケヤキ H60×W300×D90cm



石島基輝 「降り立つ時間 - 雨と靴」
 鉄、アルミニウム、新聞紙、生成AI画像、手動ウインチ H300×W145×D290cm



梅澤克 「Barely Alive」
 杉、鉄、大理石(白)、綿、ポリエステル等(ミクストメディア) H300×W333×D350cm



中林千莉 「水銀の雫」
 ステンレス H145×W100×D100cm



上田千裕 「日々の揺らぎ」
 樺 H165×W60×D86cm



塚本陽万里 「白河夜船」
 ミクストメディア H90×W130×D130cm



原圭吾 「薄氷」
 ジェスモナイト H123×W36×D37cm



芸術学

The Study of Contemporary Art Practice and Visual Culture



現代における芸術の
実践と視覚文化の研究により、
芸術の意義を探求し社会に貢献する。

美学・美術史・工芸論を中心とする視覚文化研究、作品制作やキュレーションの実践を伴う現代美術研究を通して、芸術が今日の社会に果たす役割を自ら探し行動する人材を育成します。

1年次

芸術学専攻で行う調査や制作などの概要を理解し、視覚文化研究・現代美術研究に必要なスタディスキル及び制作表現の基礎力を身につけます。

芸術学演習(一)「基礎」
ユネスコ創造都市(クラフト&フォークアート分野)に認定されている金沢には、江戸時代以来の様々な文化が今も息づいています。金沢の文化に関するフィールドワークを行い、これをケーススタディとして芸術学概論を講義した後、視覚文化研究・現代美術研究の導入としての基礎的な演習を、各教員がオムニバス形式で行います。

- 芸術学演習(一)
- | | | |
|-----------|-----------|--------|
| 日本美術史I・II | 東洋美術史I・II | 西洋美術史I |
| 彫刻演習 | 工芸演習 | デザイン |
| 映像メディア | | |



工房見学(毎田染画工芸)



演習(一) グループワーク

2年次

視覚文化研究・現代美術研究のスタディスキルの展開力、企画実践を含む制作表現力を身につけ、専門研究を具体的にイメージしつつ、その方法を試行します。

芸術学演習(二)「展開」
アーティスト・イン・レジデンス(研修旅行)と連動した作品制作と展示企画、美学・美術史・工芸論を中心とする視覚文化研究の文献の輪読と議論、現代美術のキュレーションにおける実地調査など、1年次の芸術学演習で修得した基礎力の展開として、視覚文化研究・現代美術研究に関する発展的な演習を、各教員がオムニバス形式で行います。

- 芸術学演習(二)
- | | | |
|---------|---------|--------|
| 西洋美術史II | 工芸史I・II | 美学 |
| 近代美術史 | 絵画演習 | 美術表現演習 |
| 工芸 | 版画 | |



演習(二)制作「死なないための術」和田夢花(撮影/岡田宇左)



研修冊子表紙

3年次

視覚文化研究・現代美術研究のスタディスキルの専門性、制作表現力を高めるとともに、卒業研究の方向性を定め、その目的と意義を認識します。

芸術学演習(三)「発展」
1・2年次の芸術学演習で修得した基礎力・展開力に基づく専門研究について、各教員がゼミを開講し、美学・美術史・工芸論を中心とする視覚文化研究、現代美術における多形式での制作・理論、キュレーションの研究とその実践に関する演習を行います。卒業研究を念頭にゼミを選択し、調査・研究、制作・展示を通して研究テーマを探求します。

- 芸術学演習(三)
- | | |
|----------------------------------|---------------|
| 美術論研究 | 美術工芸特論 |
| 日本絵画史特講 | 西洋絵画史特講 |
| 彫刻史特講 | |
| 専門語学(英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、中国語、古文) | |
| 絵画 | コンピュータグラフィックス |



演習(三)ゼミごとの指導風景例

4年次

視覚文化研究・現代美術研究における専門研究を行い、各自のテーマに基づく論文や作品制作等を完成させ、その成果を発表します。

芸術学演習(四)「集大成」
3年次に行った専門研究を前提に研究領域やテーマを決定し、美学・美術史・工芸論を中心とする視覚文化研究、および作品の制作やキュレーションの実践を伴う現代美術研究における卒業研究(論文/制作)を行い、主指導教員の個別指導に基づく調査・研究、制作・展示、発表におけるプレゼンテーションと質疑応答を通して完成に導きます。

- 芸術学演習(四) 卒業研究
- 制作実技領域は12月に学内展示発表を行います。また、2月には全領域が研究を可視化し、卒業制作展での展示を行い、その機会にあわせて金沢21世紀美術館レクチャーホールで口頭での研究発表を行います。(一般公開)



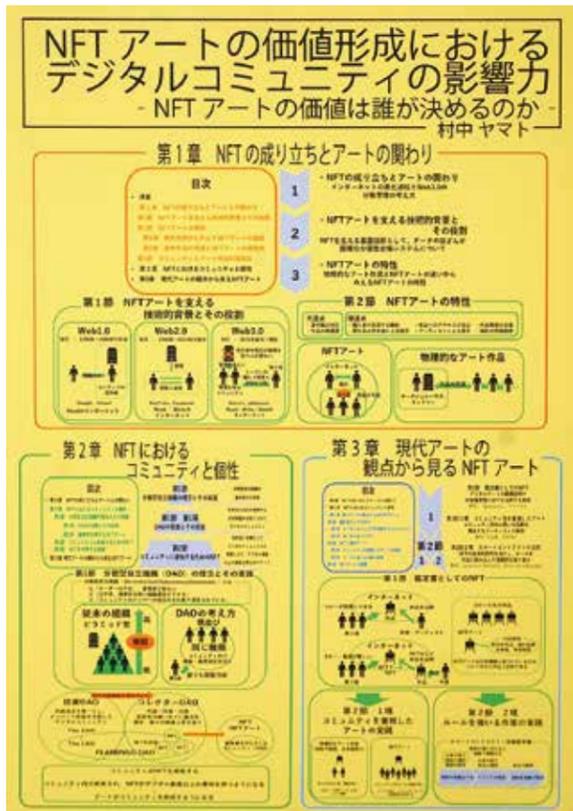
演習(四)卒業研究発表風景

学外研修

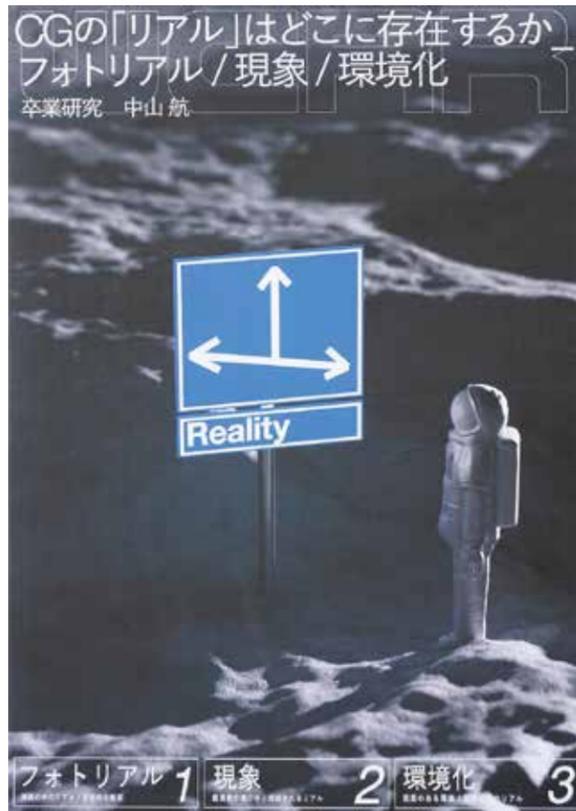
研修旅行:アーティスト・イン・レジデンス(大分県別府市)
2年次の美術表現演習と芸術学演習(二)で行う作品制作および学内での展示企画を、学外の施設における滞在制作展示として発表し、報告書を作成することにより、現代美術領域における現場力を養います。

卒業後の進路・活躍

【就職】北海道立近代美術館、北海道立旭川美術館、モエレ沼公園、弘前れんが倉庫美術館、東北福祉大学芦沢銈介美術工芸館、秋田市立千秋美術館、福島県立博物館、茨城県近代美術館、東京国立博物館、東京ステーションギャラリー、草間彌生美術館、横浜美術館、横須賀美術館、ポーラ美術館、黄金崎クリスタルパーク、愛知県陶磁美術館、名古屋市美術館、古川美術館、豊田市美術館、国立工芸館、石川県立美術館、石川県輪島漆芸美術館、石川県七尾美術館、富山県美術館、富山県水墨美術館、富山市ガラス美術館、黒部市美術館、セネ美術館、金沢市立中村記念美術館、金沢湯涌夢二館、福井県立美術館、金津創作の森美術館、敦賀市立博物館、二条城、大阪中之島美術館、国立国際美術館、伊丹市立美術館、和歌山県立近代美術館、鳥取県立美術館、福岡アジア美術館、立花家史料館、九州国立博物館、東映アニメーション(株)、劇団四季、福井大学、金沢大学、公立および私立中高等学校美術教員など 【他大学進学先】大学院:東北大学、東京大学、筑波大学、千葉大学、神戸大学、九州大学、東京藝術大学、京都市立芸術大学、ロンドン大学など



村中ヤマト
「NFTアートの価値形成におけるデジタルコミュニティの影響力 -NFTアートの価値は誰が決めるのか-」



中山航
「CGの「リアル」はどこに存在するか フォトリアル/現象/環境化」



中山航
「Moonwalk (Cyclic)」 2024 映像、XDR



山田真音
「応えぬもの」 2024 布、石、風船、シャボン玉液、洗濯糊、ホウ砂、食塩、アクリル絵の具、ネイルリムーバー、ラッカースプレー、マニキュア、ビニールシート、ブルーシート、スライム



戸田新夏
「第四波フェミニズムにおける美術館と匿名アカウントの関係性 -日本における事例の分析-」



志賀生和
「ファッション企業の持続可能な実践に関する調査研究 -地域産業との共存を目指して-」



辻上碧
「蕨見」 2024 藁、廃材、漂流物

ホリスティックデザイン

Holistic Design



コミュニケーションから場のデザインまで、
様々な専門領域とその関係を学ぶ。

広告、パッケージ、本、映像、ゲーム、プロダクト、ファッション、ブランディング、空間、
景観、建築。11のデザインを通してデザインの世界を広く捉え、そこから自分自身の
得意な領域を見つけ探求するカリキュラムを組んでいます。様々なデザインのスキルや
視点、それらの関係性を学び、変化する社会、多様性が重視される現代にふさわしい
デザイナーの育成を目指します。



1年次

デザインの基礎を学ぶ
自分自身のデザイン力を耕す。

描出、色彩、素材、形態、情報、発想など
デザインの基礎を総合的に学びます。

- ホリスティックデザイン演習 (一)
- 描出演習
 - 色彩演習
 - 素材演習
 - 形態演習
 - 情報演習
 - 発想演習



色彩演習「スクリーン印刷」



素材演習「ナチュラルマテリアル」



形態演習「構造と機能」



ゲーム課題

2年次

視野を広げ、想像力を育む
自分自身のデザインの世界を広げる。

選択式の演習が加わり、
様々なデザイン領域の基礎を実践的に学びます。

- ホリスティックデザイン演習 (二)
- デザインプロセス演習
 - デザイン論



ファッションエディトリアル



パッケージデザイン「日本酒」



UIUX



アイデンティティ

3年次

専門的スキルを横断的に学ぶ
自分自身の得意分野を形成する。

選択式の演習により、異なる領域を横断的に、
または同系統の領域を縦断的にデザインへの応用を学びます。

- ホリスティックデザイン演習 (三)
- ホリスティックデザイン特論
 - デザインマーケティング



インフォグラフィックス



テストマーケ



空間デザイン



くらしの未来

4年次

課題を抽出し、社会へ発信
自分自身のテーマを確立する。

デザイン演習のまとめとして
卒業制作に取り組みます。

- ホリスティックデザイン演習 (四)



スタートデザイン



研究活動



卒業制作展



卒業制作展

学外活動 (産学連携事業)



pigeon グラフィックデザイン



湖池屋ブraidポテトJAPAN
金沢の甘えび パッケージデザイン



無印良品・九州大学連携プロジェクト
つながるモノづくり市



金沢村田製作所 イルミネーション

卒業後の進路 (現視覚デザイン専攻・現環境デザイン専攻)

【就職】 イケア・ジャパン(株)、(株)イトーキ、(株)イリヤ、王子製紙(株)、(株)オカムラ、(株)オリバー、海法主建築設計事務所、花王(株)、(株)加納デザイン事務所、キリンビバレッジ(株)、
(株)クボタ、ケイミュー(株)、(株)湖池屋、(株)コーエーテクモゲームス、ココヨ(株)、(株)コトブキ、コナミ(株)、(株)Cygames、(株)サイバーエージェント、(株)サンリオ、(株)ジェーシー・スパーク、
(株)GK設計、ジーク(株)、シャープ(株)、スズキ(株)、(株)snowpeak、(株)スペース、(株)セガ、積水樹脂(株)、(株)船場、ソースネクスト(株)、ソニー(株)、(株)大広、(株)DMM.com、(株)TBSテ
レビ、(株)タカラトミー、(株)たきコーポレーション、(株)丹青社、TOTO(株)、(株)DNPコミュニケーションデザイン、(株)テレビ朝日、デンソーテクノ(株)、(株)電通、(株)戸田芳樹風景計画、
TOPPANホールディングス(株)、トヨタ自動車(株)、(株)ドワンゴ、(株)日本デザインセンター、日本放送協会 (NHK)、任天堂(株)、NEXCO西日本グループ、(株)乃村工藝社、
(株)博覧、(株)博報堂、(株)阪急デザインシステムズ、(株)バンダイナムコスタジオ、パナソニック(株)、(株)日立製作所、(株)フジテレビジョン、本田技研工業(株)、三菱電機(株)、(株)
ムラヤマ、(株)メルカリ、ヤフー(株)、(株)LIXIL、(株)リュウズ、YKKAP(株)、1-UPスタジオ(株)



山本彩香 「バクソウパノラマブルーパンチ」
ゲーム / webサイト



山根里利佳 「光と暮らす窓」
暮らしに自然を取り込み、心を豊かにする「窓」の研究・制作



坂口歩 「MEDIUM (FOR NOTO)」
新聞



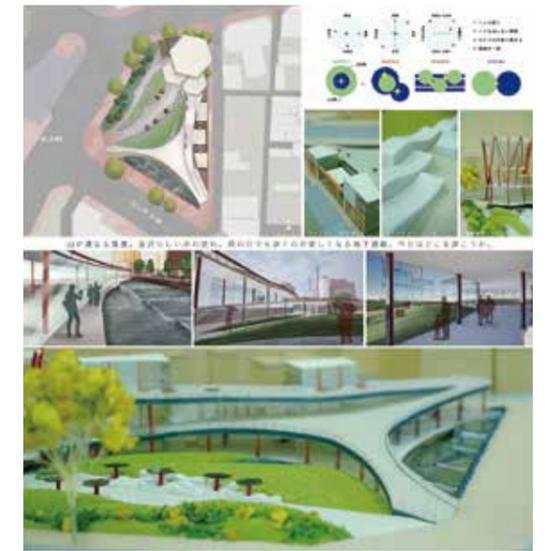
宮澤つぐみ 「Cosmic Bloom」
ゲームデザイン・映像



長浜華翔 「Re-Branding フロマージュ」
ブランディング



樋口初喜 「éclore」
ポディアートサービス



鈴木快千代 「街を魅せる駅前ビジョン」
金沢の心地よさをつくる屋外空間の研究と制作



魚野真由 「織水の表情」
シルクジャガードの魅力を引き出す研究

インダストリアルデザイン

Industrial Design



「手で考え、心でつくる」を理念に、
知性と感性豊かなプロのデザイナーを目指す。

社会的ニーズに応える広い視野と解決力を持ち、コミュニケーション能力が高く、時代に
敏感な創造性と造形力あふれるデザイナーを養成します。日用品や家具、電気製品、情
報機器、公共用品、自動車などのデザインを扱います。様々な素材加工技術や思考プロ
セスを体験的に学び、理論を構築し、リアリティを持って社会の要請に応えうる、人間に対
する理解とチャレンジ精神に満ちたデザイナー・研究者・教育者の育成を目指しています。

1年次

デザインの基礎を学ぶ。

基礎造形、表現、技術を学びます。
デザイン科2専攻共通の課題もあります。工房教育として、金属、木材、
プラスチック等の素材加工技術、塗装などを学びます。

インダストリアルデザイン演習(一)
デザイン基礎演習 材料学演習
アイデアデベロップメント



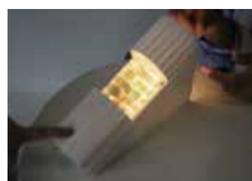
インダストリアルデザイン演習(一)
基礎造形



インダストリアルデザイン演習(一)
フォトショップスケッチ



デザイン基礎(形態)



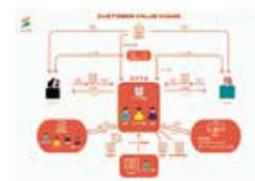
材料学演習(複合素材)

2年次

インダストリアルデザインの要素を学ぶ。

専門的なデザインスケッチやモデル制作の技法を学びます。
製品の機能、素材、構造、詳細から造形を考えます。

インダストリアルデザイン演習(二)
コンピュータ演習I デザインプロセス演習
インターフェースデザイン



デザインプロセス演習
サービスデザイン



インダストリアルデザイン演習(二)
機能(GUI)



インダストリアルデザイン演習(二)
コンセプトとカタチ(ドライヤー)



インダストリアルデザイン演習(二)
素材と構造と接合法(照明器具)

3年次

インダストリアルデザインのプロセスを通して手法を学ぶ。

製品の調査、企画、デザイン、試作まで一貫したインダストリアルデザインのプロセス
を通して手法を学びます。産学連携プロジェクトや、企業インターンシップへの参加
など、より社会における実践に近い形でプロのデザイナーの仕事を経験します。

インダストリアルデザイン演習(三)
コンピュータ演習II 人間工学 デザイン工学



インダストリアルデザイン演習(三)
家電のデザイン



インダストリアルデザイン演習(三)
モビリティのデザイン



インダストリアルデザイン演習(三)
椅子のデザイン



インダストリアルデザイン演習(三)
サービスや情報機器のデザイン

4年次

インダストリアルデザインの応用として視野を広げ、
必要なテーマを自身で発掘し解決に導く。

インクルーシブデザイン演習、応用演習のまとめとして
卒業制作に取り組みます。

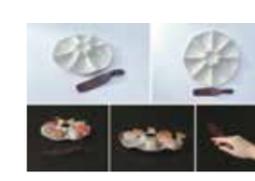
インダストリアルデザイン演習(四)
卒業制作
知的財産権 デザインマーケティング



インダストリアルデザイン演習(四)
スタートデザイン(災害用トイレ)



インダストリアルデザイン演習(四)
産学学習(加藤段ボール)



インダストリアルデザイン演習(四)
公共用品



卒業制作(金沢21世紀美術館)

海外研修旅行 / 社会連携事業



海外研修旅行
(デンマーク フリッツハンセン)



国際交流
(デンマーク王立美術院)



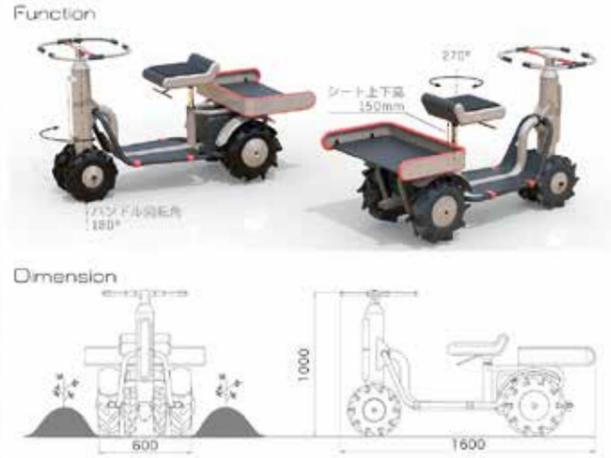
金沢マラソン完走メダルデザイン
(金沢市)



メガネ部活動
(金沢市)

卒業後の進路

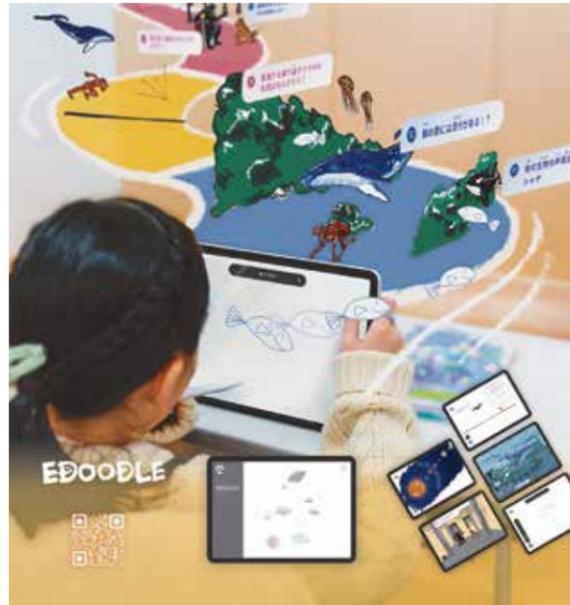
【就職】アイシン精機(株)、愛知(株)、アイリスオーヤマ(株)、アクセンチュア(株)、(株)アシックス、いすゞ自動車(株)、井関農機(株)、(株)イーキ、(株)INAX、NEC(株)、(株)オカムラ、
オリンパス(株)、貝印(株)、カシオ計算機(株)、(株)カネカ、河津(株)、キヤノン(株)、(株)クボタ、(株)ケイテック、コクヨ(株)、サンデン(株)、ソースネクスト(株)、(株)GK京都、(株)GKダイナミッ
クス、(株)JVCケンウッド、シチズン時計(株)、(株)島津製作所、(株)シマノ、シャープ(株)、伸晃化学(株)、スズキ(株)、(株)SUBARU、セイコーインスツル(株)、セイコーウオッチ(株)、
象印マホービン(株)、ソニー(株)、ダイキン工業(株)、大建工業(株)、ダイハツ工業(株)、(株)タニタ、(株)デンソー、(株)デプロインターナショナル・アソシエイツ、(株)東芝、トヨタ自動車(株)、
トヨタ車体(株)、(株)豊田自動織機、ナトコ(株)、(株)ニコン、日産自動車(株)、(株)日産テクノ、任天堂(株)、バイオニア(株)、パナソニック(株)、(株)パナダイナムコスタジオ、(株)日立製作所、
(株)PFU、富士フイルム(株)、ブラザー工業(株)、(株)ホンダアクセス、(株)本田技術研究所、マツダ(株)、(株)ミクシィ、ミズノ(株)、三菱電機(株)、(株)柳工業デザイン研究会、ヤマハ(株)、
ヤマハ発動機(株)、(株)LIXIL、(株)リコー、(株)リッチェル



相馬爽人 「Grovy」
野菜農業を始める人のための農作業を快適にするモビリティ



上野有輝 「NOXT」
バイクを使用した新たなアウトドアのライフスタイルの提案



亀田あかり 「EDOODLE」
子どもの「外れ値行為」を生かした落書きから広がる教育アプリケーション



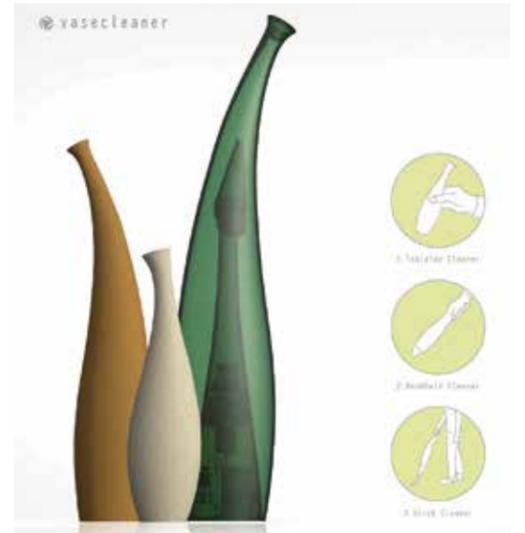
喜多純平 「Crebo」
多様な作業空間を構築できるパズルファニチャー



坪内大貴 「D-Boy」
運転する楽しさに特化したマイクロカー



福島蘭奈 「PICTAR」
感覚を共有するためのAR コミュニケーションツール



前川桃葉 「vasecleaner」
飾れるクリーナー



森島小紀瑛 「Chigra」
フロアライフを豊かにするロールチェア



善佑加
過疎地域における医療問題の解決に向けたサービスの研究



新しい工芸の世界を切り拓く 人材の育成を目指します。

工芸科では大学4年間の前半で各種伝統技法や素材について学び、特に工芸に対する知識と技術の習得を目指します。後半では「表現力と創造性」をキーワードとし、陶磁、漆・木工、金工、染織の各コースの特色をいかながら相互に連携を保ち、専門課程を軸とした研究に取り組みます。本学士課程をとおして、世界に通ずる工芸作家やデザイナー、研究者、指導者を育成することを目指します。

1年次

「基礎と体験」ととらえ、工芸のあり方を模索します。

- | | | |
|------------|------|--------|
| 工芸演習(一) | 色彩演習 | 工芸概論 I |
| 材料学演習(石膏) | 形態演習 | 伝統文化論 |
| コンピュータ演習 I | 描出演習 | |
| デザインプロセス | 写真演習 | |

1年次は工芸の基礎を習得するとともに、陶磁、漆・木工、金工、染織の各コースを体験し広く表現力を養います。

卒業後の進路・活躍

【就職】アッシュ・ペー・フランス(株)、(株)アックス、石川県工業試験場、石川県輪島漆芸美術館、(株)INAX、宇仁繊維(株)、AMD(株)、大阪産業大学、鹿児島大学、上出長右衛門窯、グンゼ(株)、劇団四季、(株)小西美術工芸社、(株)サンゲツ、セーレン(株)、スズキ(株)、セイコーインスツル(株)、ソニー PCL(株)、武内プレス工業(株)、(株)TASAKI、TBカワシマ(株)、東リ(株)、(株)とみひろ、富山県繊維試験場、西川産業(株)、ニッコー(株)、NIWAKA、白山陶器(株)、(株)バンダイ、飛騨産業(株)、独立行政法人造幣局、本田技研工業(株)、(株)SUBARU、(株)ミキモト装身具、(株)山崎麻織物工房、ヤマハ発動機(株)、(株)ヨーガンレール、LosAngelesCountyMuseumofArt、(株)ワコール、1-UPスタジオ

【工房・研修所】石川県立九谷焼技術研修所、石川県立山中漆産産業技術センター、金沢卯辰山工芸工房、高岡市デザイン・工芸センター、多治見市陶磁器意匠研究所、福井県工業技術センター

【受賞・発表】アートアワード・キョー丸の内2012シュウウエムラ賞、第50回日本クラフト展日本クラフト大賞・経済産業大臣賞、第45回伝統工芸日本金工展新人賞、第45期国際瀧富士美術賞、第25回全国染織作品展奨励賞、新潟雪染舎美術館「KOGEI2021」(育成賞・審査員賞)、「KOGEI2022」(大賞・審査員賞)、第78回金沢市工芸展(世界工芸都市宣言記念賞・工芸協会会長賞・青年会議所理事長賞・金沢市長奨励賞)、第14回現代手織物クラフト公募展(グランプリ・長野県知事賞)、国際漆展2023銀賞、第40回日本伝統漆芸展入選、第64回石川の伝統工芸展(新人賞)

2年次

「素材と技術」ととらえ、専門分野の知識と技術を養います。

- | | |
|-------------|-----------------|
| 工芸演習(二) | 地域工芸演習 I (社会研究) |
| 古美術演習 | デザイン演習 I |
| コンピュータ演習 II | 現代工芸論 I |

陶磁コース

2年生では陶磁の基礎と表現媒体としての土の可能性を学びます。3年生では造形表現とデザイン展開を実践的に学びます。九谷焼の土壌を踏まえた技術習得に加え陶磁器による新たなモノづくりを模索し続ける、時代を見据えた次世代の表現を切り拓く人を育成します。

漆・木工コース

2年生で漆芸の基礎を学び、3年生では素材や技法の展開と応用、さらに4年生では表現を目的とし、現代における漆・木工芸の可能性を探ります。また伝統や現代あるいは地域や文化など広い視野で時代を捉え、将来広く活躍し得る人材の育成を目指します。

金工コース

現代の生活や社会の環境、情勢など世の中の動きを見据えながら、金属の特性を活かした鍍金、銀金、彫金技法を習得し、豊かな表現力を養います。マンツーマン教育を通じ、次世代を担う人材の育成を目指します。

染織コース

当地は加賀友禅の産地であり、また合成繊維の製造・加工に関して、質・量ともにトップレベルの産地です。本コースでは伝統から先端にいたる幅広い技術の習得、造形的表現やデザイン理論に軸足を置きながら、マンツーマン教育を通して新たな時代のモノづくりを目指します。

3年次

「自己発見」の期間として、表現力と創造力を深めます。

- | | |
|---------|------------------|
| 工芸演習(三) | 地域工芸演習 II (産地研修) |
| 複合素材演習 | デザイン演習 II |
| | 現代工芸論 II |





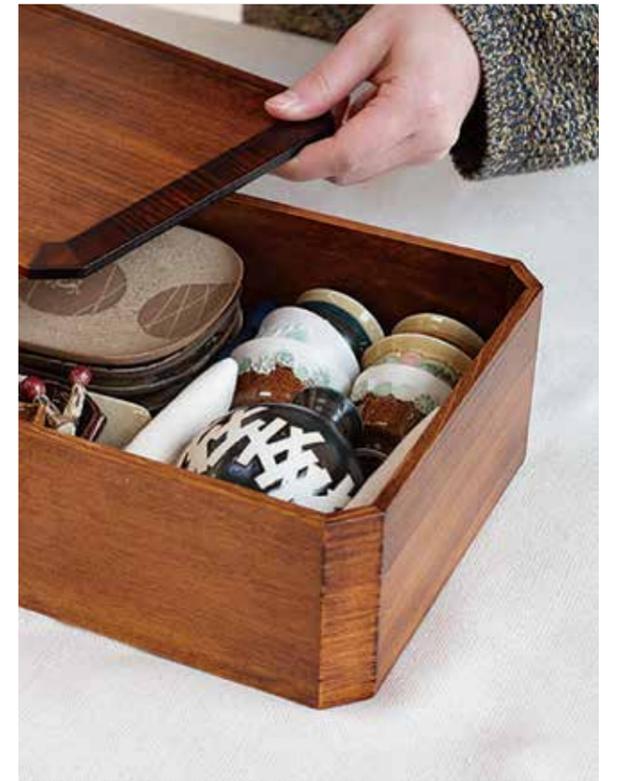
吉川杏 「木の実の器」
漆、麻布、金粉、銀粉、夜光貝 H 90×W 150×D 90 cm



江口晚香 「BEING」
漆・麻布・砥粉・地の粉・まこも粉・桐・樫 H 152×W 138×D 105 cm



荒木いちご 「要石 鯨を抑える」
陶、色絵、金彩 H 56×W 53×D 46 cm



菅沼綾子 「森の箱庭」
磁器土、布、真鍮、銅、漆、檜 H 19×W 27×D 16 cm



川嶋叶乃 「私の持っている負の感情をお見せしましょう」
綿 H 349×W 172×D 2 cm



石渡結 「Tabula Rasa」
綿、土による染色、ステンレス H 350×W 100×D 100 cm



岩田加奈恵 「初蝶」
洋白、真鍮、ステンレス、純銀線 H 40×W 40×D 40 cm



大村怜子 「もういちどわたしにであうとき」
ブロンズ H 43×W 77×D 57 cm

一般教育等 / 基礎科目

一般教育等

Liberal Arts



より自由に、より創造的であるために。

ギリシア神話から人新世まで。文化、歴史、科学を学ぶ。心と身体の動きに気を配る。社会的な課題に想いを馳せる。リベラル・アーツが育む知性と感性はいつの時代も本物のアーティストの証明です。少人数・実践重視の外国語教育(英仏独伊中)は異文化理解と海外留学へのパスポート。教職課程と学芸員課程は卒業後の進路の幅を広げています。

Curriculum

〈一般教育〉	〈教職科目〉	〈博物館科目〉
哲学	教育の本質と目的	博物館概論
心理学	教育心理学	博物館資料論
社会学	教職論	博物館経営論
歴史	教育課程論	博物館展示論
日本国憲法	教育方法論・特別活動の指導法	博物館資料保存論
文学	教育とICT活用	博物館情報・メディア論
文化人類学	特別支援教育概論	博物館教育論
考古学	道徳教育の指導法	博物館実習
生涯学習概論	教育相談の基礎と方法	生涯学習概論
人間と文化	総合的な学習の時間の指導法	
フレッシュマンセミナー		
博物館概論		
金沢の文化行政		
キャリアデザイン		
スポーツ科学		
物質の科学		
材料の科学		
情報処理		
エコロジー		
科学技術史		
数理科学		
英語		
フランス語		
ドイツ語		
イタリア語		
中国語		
体育実技		
美術教育法		
工芸教育法		
教育制度と社会		
生徒指導・進路指導の理論と方法		
教育実習事前事後指導		
教育実習		
教職実践演習		

基礎科目

Basic Subjects

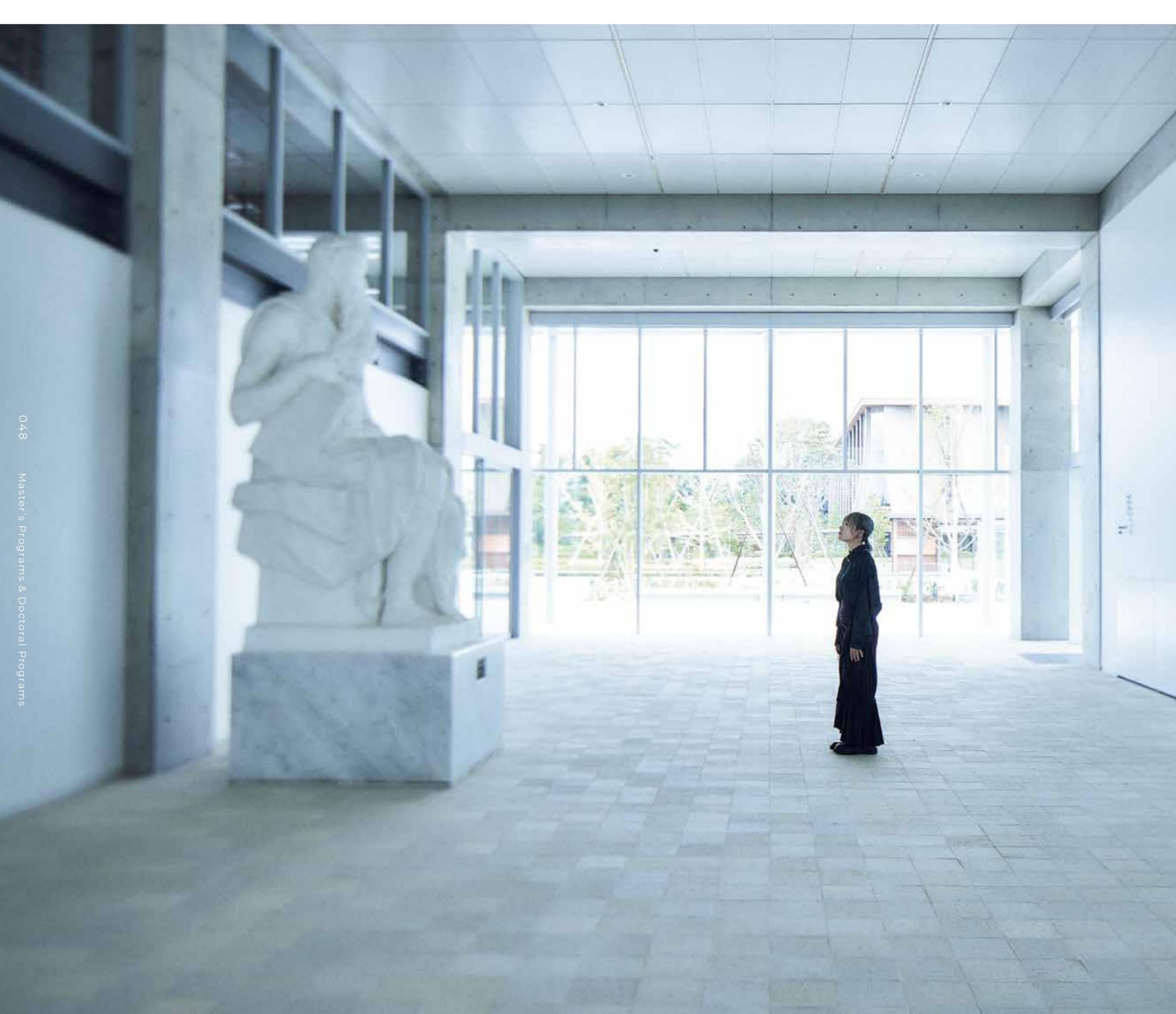


専攻の枠を超えて理論と実技を学ぶ。そこにはいつも新たな発見がある。

表現の手法が拡張し、融合していく時代。金沢美術工芸大学は、そのはじまりから専攻の枠を超えて学ぶことを大切にしてきました。すべての表現の根底にある本質を学び、創造力の基礎を培います。

Curriculum

美学	専門英語演習	デザインⅡ (Tea-bag Re design)	版画
日本美術史Ⅰ	専門語学(英仏独伊中、古文)	デザインⅡ (ステーションナリー)	工芸技法(紙)
日本美術史Ⅱ	芸術と批評	デザインⅡ (椅子)	現代美術演習
東洋美術史Ⅰ	保存修復概論	デザインⅡ (日用品)	造形表現工房Ⅰ (メディア/映画表現の世界)
東洋美術史Ⅱ	絵画Ⅰ (素描・模写)	デザインⅢ (センスオブワンダー)	造形表現工房Ⅱ (平面/ドローイング(人体))
西洋美術史Ⅰ	絵画Ⅰ (素描・人体)	デザインⅢ (ディスプレイ)	造形表現工房Ⅲ (立体/彫刻表現)
西洋美術史Ⅱ	絵画Ⅱ (版画)	デザインⅢ (ランドスケープ)	造形表現工房Ⅳ (素材・技術/素材技術研究)
近代美術史	絵画Ⅲ (日本画)	デザインⅢ (建築)	造形表現工房Ⅳ (素材・技術/現代美術 ミクストメディア)
工芸史Ⅰ	絵画Ⅲ (油絵)	工芸Ⅰ (金工)	造形表現工房Ⅳ (素材・技術/芸術と科学)
工芸史Ⅱ	絵画Ⅲ (フレスコ)	工芸Ⅱ (陶磁)	造形表現工房Ⅴ (社会環境/アートプロジェクト)
美術工芸特論	彫刻Ⅰ (塑造)	工芸Ⅱ (ガラス)	造形表現工房Ⅴ (社会環境/景観形成・造園演習)
美術解剖学	彫刻Ⅱ (彫造)	工芸Ⅲ (木工)	造形表現工房Ⅴ (社会環境/社会教育・美術教育)
図学	彫刻Ⅲ (ARプランニング)	工芸Ⅲ (漆・木工)	造形表現工房Ⅵ (語学・理論/美術教育ゼミナール)
色彩論	デザインⅠ (グラフィックデザイン基礎)	工芸Ⅳ (染織)	造形表現工房Ⅵ (語学・理論/芸術と言語表現)
デザイン心理学	デザインⅠ (ファッションコミュニケーション)	映像メディア	造形表現工房Ⅵ (語学・理論/工芸作品展示と言語表現)
建築論	デザインⅠ (理屈)	コンピュータグラフィックス	



大学院

修士課程
博士後期課程



専門性を高め学問に通じる道を拓く。

実践のなかに理論を見出し、理論から実技へ発展させます。
相互に学びを高めることで、作品と理論を深化させていきます。
国際的に開かれた環境で切磋琢磨を重ねる、創造と研究の場です。



| 絵画専攻

日本画コース・油画コース・映像コースの3つの研究分野があります。「日本画制作」、「油画制作」、「映像制作」等の実技演習を中心にすえ、一方で、「絵画特論」、「映像特論」をはじめとして、「美術史特講（日本、東洋、西洋）」や「美学・芸術学特講」など理論面でも充実しています。絵画・映像の理論および技術をより専門的に探究するとともに、今日の表現にも目を向け、自由な発想のもと多様化する美術の展開に対応しています。

| 彫刻専攻

彫刻コースでは、塑造、木彫、石彫、金属彫刻を、環境彫刻コースでは、インスタレーション、コンセプチュアルな創造、ジャンルを横断した造形に対応する制作を行っています。理論科目では、都市空間、公共空間、自然空間の中での立体造形について考察し、多様化する現代美術の展開についても思考を重ねています。伝統的表現技法を追求しつつ、自由な発想のもと創造の世界を広げ個性的な作品を生み出すことを目指しています。

| 芸術学専攻

美学・美術史・工芸論を中心とする「視覚文化研究」、作品制作やキュレーション等の実践を伴う「現代美術研究」の二つの分野を置き、専門研究を行っています。各専門の演習に加え、総合的・学際的関心を育成するための芸術学特論や美術系大学の特性を活かした美術技法研究なども設けています。芸術が社会に果たす役割を考え、自ら問題を設定し、口頭発表や展覧会等による研究発表を重ねながら学術的で高度なレベルの論文執筆や作品制作に取り組むことを課し、理論と実践を兼ね備えた研究者・制作者の育成を目指しています。修了生は、学芸員をはじめとして幅広く芸術の分野で活躍しています。

| 工芸専攻

陶磁、漆・木工、金工、染織の4コースがあり、金工と染織はさらに2分野に分かれ、6専門分野で構成されています。恵まれた環境のもと、技術的、造形的に、高度な研究ができるよう配慮されています。実技・演習に重点を置きつつ、理論的造形思考を高めるために「工芸特論」、「地域文化論」をはじめとして10理論科目が開講されています。常に伝統と現代を追求すること、素材に対する新たな挑戦が期待されています。

| デザイン専攻

現在は視覚デザイン、製品デザイン、環境デザインの3つのコースがあり、2026年度からはホリスティックデザイン、インダストリアルデザインの2つのコースとなり、現代社会とデザインの様々なテーマに即した実践的な演習が設けられています。また研究の深化には造形の基礎と展開及び方法論が不可欠であるという認識のもと、理論科目も用意されています。博士後期課程への進学が開かれています。修了後は、研究者、教育者、ディレクター、デザイナーとして活躍しています。



荒山莉子 「The next movement (Hallucination)」



野田彩加 「紅舞の海」「蒼霞の海」



金塚良菜 「労働と休息のステッチ」



明石怜旺 「RA法 AIを用いたデザイン手法の研究」



広く映像文化を学び、映像表現を探求します

アニメーション、映画、ゲーム、メディアアートの専門家による講義やフィルムメディアとデジタルメディアの撮影・編集を学ぶ演習、セット撮影・録音・カラーグレーディング・上映の各機能が整うコース教室及びメディアセンター内スタジオ群を利用した作品制作を通じて、映像表現について総合的に研究します。

各分野の専門家が客員教授・非常勤講師として講義・演習・実習などを担当し、より実践的な指導を行います。

〈客員教授〉

細田 守 (アニメーション映画監督)

りんたろう (アニメーション監督)

〈非常勤講師〉

石田尚志 (多摩美術大学)

大川景子 (映画監督)

亀井 岳 (映画監督)

菊谷達史 (美術作家)

キヤマミズキ (アニメーション作家)

口出洋徳 (コトジツ)

黒坂圭太 (武蔵野美術大学)

田所 淳 (前橋工科大学)

土肥悦子 (こども映画教室®)

仲本拓史 (映像作家)

名和田克典 (イラストレーター)

萩原朔美 (映像作家)

氷川竜介 (アニメ・特撮研究家)

前川裕介 (映像・写真カメラマン)

宮崎昭秀 (クリエイティブディレクター)

宮原康展 (映像ディレクター)

森岡東洋志 (ベースドラム)

安原広和 (東京工科大学)

主な演習のご紹介

*本ページで紹介する写真には本学美術工芸学部 油画専攻 映像表現コースが参加した授業風景が含まれています。



ビデオ撮影演習



映像制作指導 (非常勤講師: 萩原朔美)



映像制作指導 (客員教授: 細田 守)



シアター演習 (映写室)



進級制作試写 (シアター)



ビデオアート実習 (非常勤講師: 仲本拓史)



録音・MA演習 (非常勤講師: 口出洋徳)



ビデオ撮影演習 (非常勤講師: 前川裕介)



映像制作指導 (映像展示スペース)



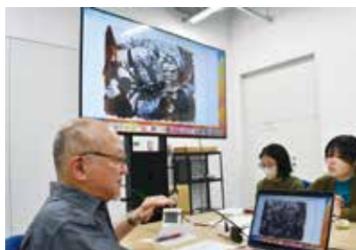
アニメーション史 (非常勤講師: 氷川竜介)



シアター演習 (シアター)



講演会・作品上映 (客員教授: 細田 守)



映像制作指導 (非常勤講師: 黒坂圭太)



カラー調整演習 (スカラー調整スタジオ)



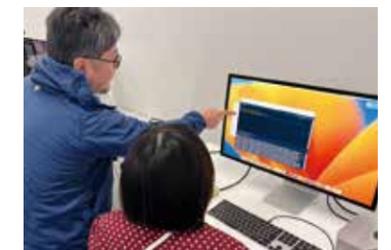
ゲーム制作論 (非常勤講師: 安原広和)



映像教育論 (非常勤講師: 土肥悦子)



メディアインсталेशन (非常勤講師: 森岡東洋志)



ライブコーディング (非常勤講師: 田所 淳)



金沢から世界へ。
深く、豊かに学び、大きく羽ばたく。

美術作家として、また研究者として
より高い領域に到達するための高度なカリキュラム。
世界を目指し、鍛錬を重ねます。



美術工芸専攻

大学院博士後期課程では、「芸術に関する高度な創造および表現の技術と理論を研究教授し、地域の美術工芸の深奥を究め、これを総合的に発展創造させ、自立して創作および研究活動を行うために必要な高度の能力を備えた美術家および研究者を養成すること」を目的とした研究制作指導・博士論文指導を行っています。

年2回公開の研究発表が行われるほか、「地域美術演習」、「造形総合研究」といった実技と理論を総合した学際的な科目も設けられ、学内外を研究の場とした比較的自由的なカリキュラムのなかで研究が保証されています。

博士後期課程の学生たちは国内外で活躍する作家、研究者でもあり、積極的に広く研究活動の場を求めています。1997年の設置以来、作家、デザイナー、研究者、国内外の大学教員など、精力的に活躍している80名の芸術博士を世に送り出してきました。



梶男 「LES PLIS-2501(髪)I~IV」



桜井旭 「四匹の鹿」



蒋先財 「仰」

〈美術研究領域〉

日本画
油画
彫刻

〈工芸研究領域〉

陶磁
漆芸
金工
染織

〈デザイン研究領域〉

ホリスティックデザイン
インダストリアルデザイン

〈芸術学研究領域〉

視覚文化研究
現代美術研究



宋芸
「molting II」



伊藤真里奈
「真紅の宝石箱」



小林美波
「アイコンプレクス
-冷えた笑いをほどいて-」



張思藝
「氣血III」



大学情報

美術工芸研究所

美術工芸研究所では、本学独自の研究の高度化を図ることを目的として、美術・工芸・デザインに関する調査・研究、芸術資料の収集と管理（保存・活用）、アートギャラリーの運営（展覧会）などの事業を行っています。

アートギャラリーでは、本学が所蔵する作品をコレクション展や特別展を通して様々な切り口で公開します。

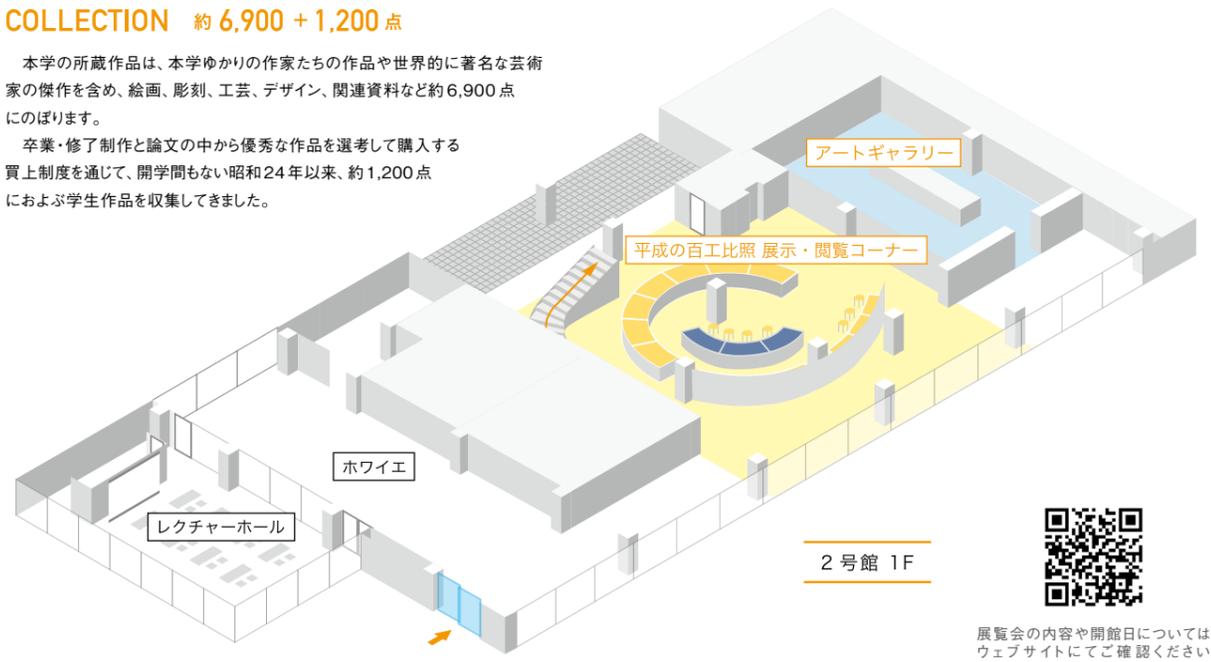
また、現在進行中の調査研究として「平成の百工比照収集作成事業」があります。江戸時代に加賀藩が収集した工芸標本「百工比照」(重要文化財)にちなむ事業で、工芸の制作や理論を専門とする本学教員が全国の産地を訪ね、約6,300点におよぶ資料を収集してきました。その資料は平成の百工比照 展示・閲覧コーナーで閲覧することができます。

美術工芸研究所長 安島諭 教授 (インダストリアルデザイン)
 山崎剛 教授 (芸術学)
 村松綾 准教授 (芸術学)

COLLECTION 約 6,900 + 1,200 点

本学の所蔵作品は、本学ゆかりの作家たちの作品や世界的に著名な芸術家の傑作を含め、絵画、彫刻、工芸、デザイン、関連資料など約6,900点にのぼります。

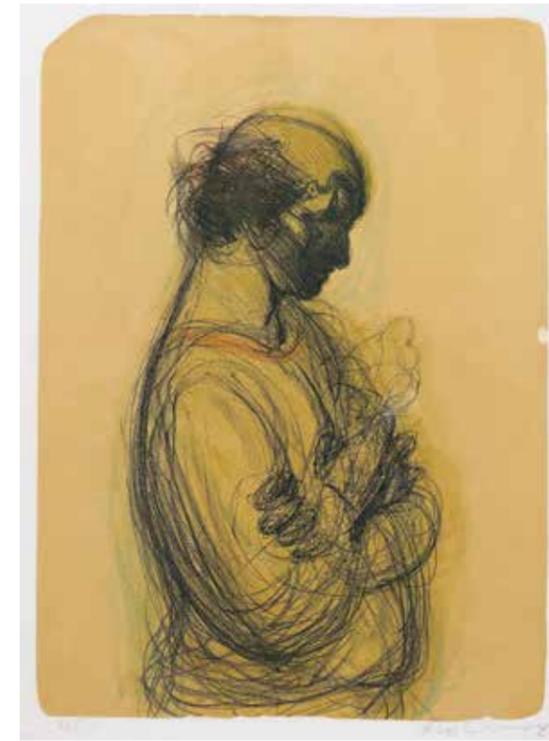
卒業・修了制作と論文の中から優秀な作品を選考して購入する買上制度を通じて、開学間もない昭和24年以来、約1,200点におよぶ学生作品を収集してきました。



展覧会の内容や開館日についてはウェブサイトにてご確認ください。

アートギャラリー

本学所蔵の美術・工芸・デザインに関する作品や資料および学生買上作品を展示公開するための施設です。



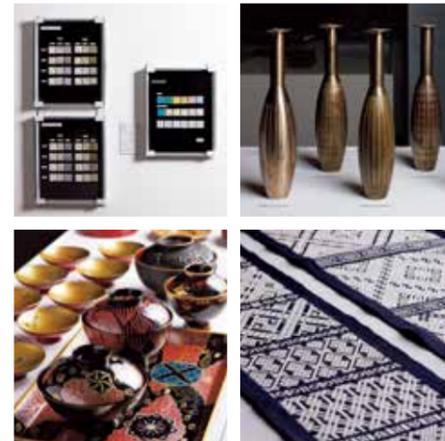
鴨居玲「Clown」、リトグラフ



マイセン磁器、ドイツ、20世紀

平成の百工比照 展示・閲覧コーナー

工芸の材料・技法・制作工程にかかわる見本が箱に納められており、棚から自由に取り出して閲覧できます。



アートギャラリー内の展示風景 新キャンパス移転記念「金沢美術工芸大学所蔵名品展」

教育研究センター

教育研究センターでは、教育研究活動の推進とその成果の発信・顕彰、FD活動による教育の質的向上、研究不正の防止、および研究倫理の遵守の徹底を目的とし、学内の教員研究費や科学研究費助成事業をはじめとする外部資金による研究の推進、本学教員の研究活動を紹介する研究発表展（金沢21世紀美術館）の開催などの事業を行っています。

教育研究センター長 荷方邦夫 教授（一般教育等）



「金沢美術工芸大学教員研究発表展2024 美大のしごと」
（金沢21世紀美術館市民ギャラリー）



【学外施設】 柳宗理記念デザイン研究所

本学で長年にわたり教鞭をとった、世界的工業デザイナーである柳宗理氏（1915-2011）のデザイン思想やデザイン史における位置づけに関する調査研究を行い、その成果を学生の教育に活かし、広く社会に発信することを目的としています。なお、同氏の貴重な資料はご遺族より金沢市に寄贈され、現在、それを核とするデザインミュージアムの計画が進められています。

柳宗理記念デザイン研究所長 根来貴成 教授（インダストリアルデザイン）



常設展示（展示資料室1）



「技術とかたち-柳宗理の木工家具-曲木」(展示資料室2)

社会共創センター



金沢美術工芸大学は社会貢献を教育と研究に並ぶ大学の使命と位置づけ、地域連携・産学連携をとって積極的に活動を行っています。本学の特長デザイン、美術工芸分野に関する専門知識や技術、社会連携で得られた成果を広く社会に還元するとともに、産業や地域の活性化に貢献し、これらの活動を体験することで、より実践的に社会に貢献できる人材を育成します。

社会共創センター長 河崎圭吾 教授（インダストリアルデザイン）

地域連携部門

本学のもつ人的資源やノウハウを活用し、地域社会や市民生活に対する芸術文化貢献事業などを通し、グローバルな視点を持ちながら地域の課題解決に取り組んでいます。

産学連携部門

地域産業や伝統文化の発展のため、企業、組合団体、他大学、研究機関、国や自治体などと連携し、新しい価値を創出する研究開発や、新たな産業・事業の振興を目指しています。

知財管理部門

大学で生まれた知的財産権の管理、活用や戦略立案、知的財産権を通じた社会との連携促進まで、産業界や地域社会と一体となって各連携部門の活動を支援、推進しています。

金沢マラソン 完走メダルデザイン・プロジェクト

金沢マラソンは金沢をまるごと「走る!」をキャッチフレーズに2015年から開催されており、金沢の魅力が満喫できるフルマラソンとして大変人気の高い大会となっています。その完走者に贈るメダルのデザインを、初回大会から続けて提案させていただいています。学生たちの豊かな感性をベースにした金沢らしいオリジナリティあるデザインの完走メダルは、毎回、ランナーからも大変好評となっています。



ホスピタリティアート・プロジェクト

金沢市立病院との連携により2009年から継続して行われている、医療分野におけるアートの潜在的な可能性を探求するプロジェクトです。ステンドグラス風の装飾を制作するワークショップや、病院を作品で満たすホスピタル・ギャラリーなどを通して、患者、医療関係者、学生が同じ視点で時間を共有するコミュニケーションの在り方を研究しています。



「プライドポテトJAPAN 金沢の甘えび」 パッケージデザイン・プロジェクト

株式会社湖池屋との連携研究として2020年から行われているプロジェクトです。「日本の誇り」をプライドポテトにのせて発信することで、日本の風土・文化により育まれてきた歴史や精神に象徴される日本の素晴らしさを世の中に広めるプロジェクトで、金沢を代表する甘えび味の商品パッケージデザインを学生たちが制作し、金沢市内の小学生や市民の投票結果を踏まえ最終案が商品化されています。毎年、全国販売され好評を得ています。



金沢らしさを表現した新しい水菓子容器のデザイン研究

金沢市に拠点を置く食品容器メーカー馬場化学工業との産学連携プロジェクトは、真空成形の技術を用いて既存の商品にはない明確な特徴と価値を求めて、新しいパッケージの提案を10年以上続けて行ってきました。近年は、SDGsの視点や、金沢らしさの表現も加え、和菓子の定義を議論し、思わず手に取りたくなる美しく魅力的な水菓子容器のデザインを、企画から和菓子との関わり方等のストーリーまで含め提案しています。



国際交流センター



世界を舞台に活躍する芸術家、デザイナー、研究者などの育成を目指し、海外作家講演会、海外作家招聘事業、大学間交流などの国際交流活動を行っています。

国際交流センター長 稲垣健志 准教授（一般教育等）

海外作家講演会

海外のアーティスト、デザイナー、大学教員、研究者等による講演会です。各分野の専門知識や最新の情報・動向を得る機会を提供しています。



ホール・ウィリアム・ロス 氏

大学間交流

アントワープ王立美術アカデミー（ベルギー／アントワープ）、ナンシー国立高等美術学校（フランス／ナンシー）、清華大学美術学院（中国／北京）、大連工業大学（中国／大連）などと交流協定を結び、学生・教職員の相互派遣などを行ってきました。今後も順次大学間交流を拡充していく予定です。



エディンバラ大学からの留学生との交流



ナンシーからの留学生との交流



ゲント留学の様子



デンマーク留学の様子

附属図書館



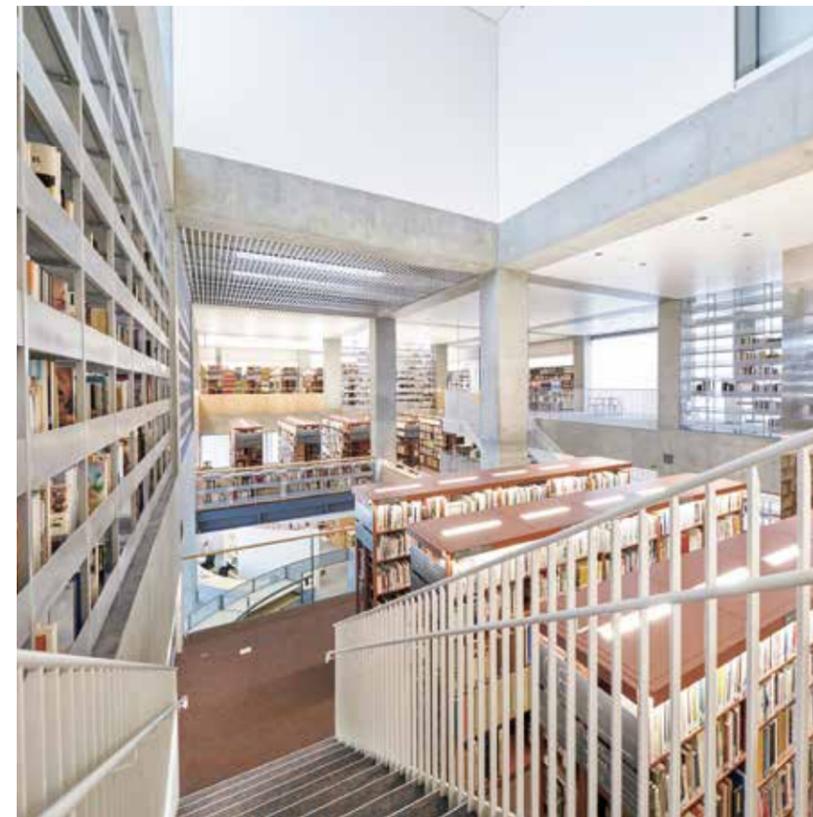
万巻の書籍から、ひらめく発想がある

附属図書館は美術・デザイン・工芸分野を中心に、国内外の図書や雑誌などを収蔵している専門性の高い図書館です。その中には発行部数の少ない貴重な書籍や展覧会の図録、今では入手困難な洋書、美術作品のような画集なども含まれており、その多くが閲覧フロアで気軽に手に取れるようになっています。

大学にとって附属図書館は大学における学習・教育・研究を支える存在であるとともに、学生の自発的な学びを後押しする場所です。自分自身の思考を育て制作の基盤を作るためには現在の美術界の状況を知ることが不可欠です。それには美術史等の美術関連だけでなく、東西の歴史、哲学、文学、社会学等の分野を幅広く学ぶことも大切です。大学では様々な授業や正課外の活動を通じた教員、友人との交流が皆さんの創造性を刺激してくれますが、何気なく手にした本、偶然目にした画集からもひらめきを得られるでしょう。そのひらめきを単なる思いつきではなく自身の作品に昇華し、世界での自分の位置を考えるための環境が整っています。大学図書館司書のレファレンスサービスもぜひ活用してください。

何を学ぶかは個人の選択であり、偶然の産物かもしれません。図書館でも素晴らしい出会いがあることを期待しています。

附属図書館長 桑村佐和子 教授（一般教育等）



蔵書 2025.3.31現在

図書	126,292 冊
和書	97,155 冊
洋書	29,137 冊

雑誌	1,378 誌
和書	1,221 誌
洋書	157 誌

視聴覚	3,080 タイトル
-----	------------

利用状況 2024年度

入館者数	17,430 人
------	----------

貸出冊数	10,527 冊
------	----------

市民登録者数（累計）	1,256 人
------------	---------

学生生活

美大祭

毎年11月初旬、本学創立記念日(11月7日)の前に、自治会(美大祭実行委員会)の主催で美大祭を開催しています。作品展示、講演会、仮装パレード、屋外模擬店、ステージイベントなど多彩な催しです。学生・教職員相互の親睦はもとより、市民との交流を深める行事です。



五芸祭

愛知県立芸術大学・沖縄県立芸術大学・京都市立芸術大学・東京藝術大学・本学の五芸術大学の交歓会で、体育競技会、文化交流会を通じて、課外活動の発展を促進し、学生相互の親睦を図ることを目的に、毎年5月に各大学の輪番制で開催しています。



学外研修

各専攻実習授業の一環として、年に3日～6日間の研修が実施されています。各専攻の研究内容、社会状況、学生事情等に合わせた計画・研修地が選ばれ、国内外の古美術研修、郊外写生授業、企業実習体験、アトリエ訪問などを行います。学生にとっては数少ない宿泊を伴う研修で、近年は海外研修を実施する専攻もあり、学生が楽しみにしている授業のひとつです(旅行費用等は入学時に納入)。



卒展・卒業式

毎年2月に卒業・修了制作展が開催され、学生生活の集大成となる作品を展示しています。本学関係者のみならず、多くの市民の方が足を運び、作品を鑑賞していただいております。また、3月に開催される卒業式では、自身で制作した仮装姿で式に臨む卒業生が多くなります。その歴史は昭和50年代初め頃までさかのぼり、脈々と受け継がれる本学の名物となっています。



クラブ活動

体育系、文化系のみならず、本学ならではの個性的なクラブがあり、多くの学生が活動に参加しています。のびのびとスポーツを楽しむ、同じ趣味の仲間が集うといったクラブが多く、学年、学科・専攻を越えた友好の場となっています。

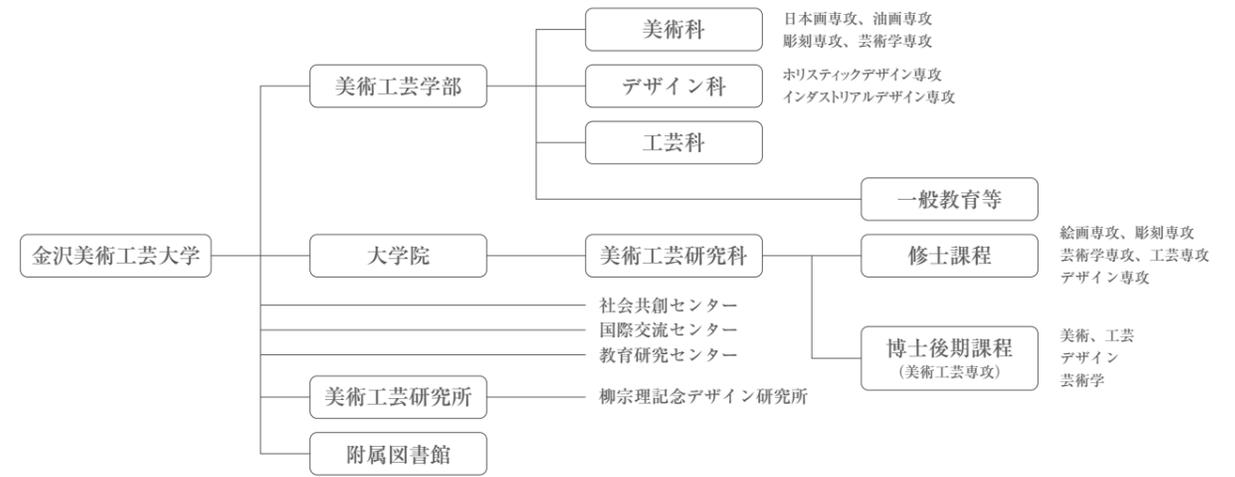


生活支援

学内には、食事を提供する学生ラウンジ、画材を調達できる売店、保健室、様々な相談を気軽にできる学生相談室を開設しています。その他、日本学生支援機構をはじめ各種の奨学金を申請することができます。また、留学を志す学生には海外の交流提携大学への派遣制度もあります。



大学の組織 (2025)



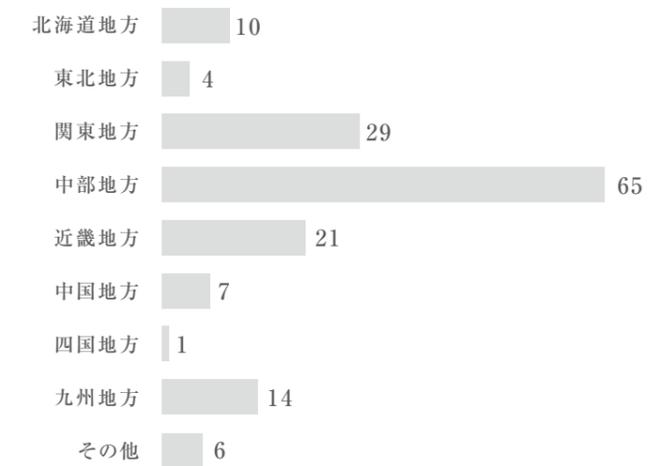
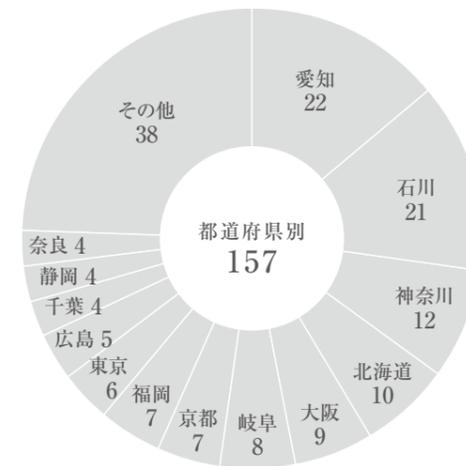
学生数 (2025)

学 部			
学科	専攻	入学定員	収容定員
美術科	日本画	15	60
	油画	25	100
	彫刻	15	60
	芸術学	10	40
デザイン科	ホリスティックデザイン	40	160
	インダストリアルデザイン	20	80
工芸科		30	120
合計		155	620

修士課程		
専攻	入学定員	収容定員
絵画	14	28
彫刻	4	8
芸術学	4	8
デザイン	6	12
工芸	13	26
合計	41	82

博士後期課程		
専攻	入学定員	収容定員
美術工芸	7	21
合計	7	21

出身校所在地別入学者数 (2025)



入学試験結果（学部）

		2025年度（令和7年度）						入学者
		一般選抜			推薦入試			
		募集人員	志願者	倍率	募集人員	志願者	倍率	
美術科	日本画	15	108	7.2	—	—	—	15
	油画	25	148	5.9	—	—	—	25
	彫刻	15	66	4.4	—	—	—	15
	芸術学	7	18	2.6	3	13	4.3	12
デザイン科	ホリスティックデザイン	40	285	7.1	—	—	—	40
	インダストリアルデザイン	18	75	4.2	2	13	6.5	20
工芸科		24	95	4.0	6	25	4.2	30
合計		144	795	5.5	11	51	4.6	157

◎公式Youtubeチャンネルで入試合格作品に関する解説、講評など入試説明動画を公開しています。



学費（学部）

入学金	金沢市内居住者	282,000円	入学手続き時に納入	
	上記以外の者	423,000円		
授業料	年間	535,800円	入学手続き時に納入	
	前期分（4月～9月）	267,900円		4月30日までに納入
	後期分（10月～3月）	267,900円		10月31日までに納入
その他の経費	成美会費（後援会費）	60,000円	入学手続き後に納入	
	学生自治会費	10,000円		
その他の経費（専攻別）	研修旅行費	日本画専攻	100,000円	入学手続き後に納入
		油画専攻	250,000円	
		彫刻専攻	130,000円	
		芸術学専攻	100,000円	
		インダストリアルデザイン専攻	300,000円	
		工芸科	130,000円	
	専攻実習費	日本画専攻	110,000円	入学手続き後に納入
		油画専攻	90,000円	
		彫刻専攻	280,000円	
		ホリスティックデザイン専攻	100,000円	
		インダストリアルデザイン専攻	120,000円	

※入学金・授業料等は改定される場合があります。

※在学中に授業料が改定された場合には、改定時から新授業料が適用されます。

※納入した入学金・授業料は返還しません。

※高等教育の修学支援制度の対象となっています。

奨学金（学部・大学院）

	2024年度（令和6年度）			
	給付・貸与の別	支給対象の学生数	対象	1件あたりの年間支給額
日本学生支援機構奨学金（第一種）	貸与	101	学部	(平均) 404,000円
日本学生支援機構奨学金（第二種）	貸与	102	学部	(平均) 705,000円
日本学生支援機構奨学金（第一種）	貸与	22	大学院	(平均) 964,000円
日本学生支援機構奨学金（第二種）	貸与	6	大学院	(平均) 860,000円
日本学生支援機構奨学金	給付	65	学部	(平均) 586,000円
吉原育英会	給付	1	学部	240,000円
クマ財団 クリエイター奨学金	給付	4	学部・大学院	1,200,000円
三谷育英会	給付	1	学部・大学院	552,000円
国際瀧富士美術賞 奨学生	給付	2	学部	300,000円
よんでん文化振興財団	給付	1	学部・大学院	600,000円
戸部眞紀財団	給付	1	学部・大学院	720,000円
佐藤国際文化育英財団	給付	1	学部・大学院	360,000円

（令和7年3月現在）

奨学金（外国人留学生）

	2024年度（令和6年度）			
	給付・貸与の別	支給対象の学生数	対象	1件あたりの年間支給額
石川県私費外国人留学生奨学金（入学から1年未満）	給付	2	大学院	240,000円
日本台湾交流協会日本奨学金	給付	2	大学院	1,740,000円

（令和7年3月現在）

生活費のめやす

	ひとり暮らしの場合（1ヶ月当たりの金額）	
	めやす	平均
家賃（共益費を含む）	15,000円～73,000円	42,000円
食費	10,000円～60,000円	23,000円
部屋の広さ	4畳～22畳	10畳
光熱水費（ガス・水道・下水道・電気）	3,000円～30,000円	11,000円
制作費	1,000円～70,000円	16,000円
アルバイト代	8,000円～130,000円	42,000円

◎大学周辺にはたくさんの学生向け住宅等があり、徒歩や自転車で10分程度の通学範囲です。

◎近所に友達が住んでいるという環境で、学生同士の交流が活発なため、女子学生にも安心です。

◎一軒家をシェアして借りの学生もおり、住み方は様々で、通信費や光熱費込みとなっている住宅等もあります。

令和6年度11月実施
学内アンケート調査結果

